



彩の山

埼玉支部報 第 43 号

《題字 松本敏夫》

【目 次】

《魅力ある組織の構築に向けて》	大山光一	1	番外：轟さんお疲れ様会	高橋 努	25
山行報告			南関東ブロック三支部合同懇親山行		
6 月月例「笠取山」	町田美春	3	「田部井さんを偲ぶ命日登山」	林 信行	26
7 月ウエルカム「山研・岳沢」	稲越洋一	6	奥秩父冷温帯天然林観察山行	渡邊泰子	27
8 月月例「白馬岳」	岡部勇人	9	ニホンジカ食害の実態調査	鴨志田隼司	29
9 月月例「宝永山」	渡辺徹也	11	清掃登山「関八州見晴台」	若林優子	35
10 月月例「常念岳・蝶ヶ岳」	宮内有加	13	グレートヒマラヤトラバース		
10 月月例「高妻山・飯縄山」	那須朋美	17	ステージⅤに参加して	轟 涼	36
10 月月例「三ツ峠山」	吉羽悠介	19	第 6 期埼玉やま塾終了報告	稲越洋一	38
11 月月例「天目山」	宮崎則子	21	「彩の山研究会」便り	小原茂延	41
平日山行倶楽部			ペンリレー 第 7 回		
赤倉温泉ユアーズイン山行	高橋 努	23	「焦りと迷い」	那須朋美	43
行風山・雷電山	渡辺徹也	23	新入会員自己紹介	林 信行	44
箆ノ登山・湯ノ丸山	立原由子	24	事務局より	林 信行	44
双子山・蓼科山	小島千代美	25	編集後記	橋本久子	45

《 魅力ある組織の構築に向けて 》

支部長 大山光一

今夏も各地の山々で遭難事故が多発しました。警察庁がまとめた、2024年7月～8月に全国で発生した山岳遭難は660件（前年同期比78件減）、遭難者は736人（同73人減）。昨年は遭難件数、遭難者ともに過去最多を記録しましたが、今年は微減。

遭難者736人を年齢別にみると、70代が166人（22.6%）と最も多く、次いで60代が164人（22.3%）、50代が148人（20.1%）。遭難原因のトップが「転倒」で、遭難者全体の23.0%。次いで「道迷い」19.4%、「滑落」が16.3%などです。

また、都道府県別では長野が116件で最多。富山64件、静岡62件と続き、態様別では「転倒」、「道迷い」、「滑落」の順に多く、「病気」と「疲労」が続きました。死者・行方不明者は計52人（同9人減）。

昨今の遭難救助の理由に“疲労“があります。時代が変わり、本物の登山者が減って、見様見真似の未組織登山者の増加が背景にあると思います。

自然が舞台の登山は、気象条件や体力、経験などに見合った山の選択と、万全な装備の準備をして、自己責任で行動し、自力下山が原則です。従って、想定外の事態に自力で対応できる知識や技術を習得しておく。と同時に、自分の力量を知ることが山を安全に登るためには重要です。

手軽に楽しめる登山ですが、登山教室やツアー登山の普及に伴って、歩き方や登り方という表面

的な知識だけを学び、登山に関わる継続した知識や技術の習得を経験していないので、想定外の場面に遭遇したときに正しい判断や対応が難しい。

かつて、山岳部や山岳会に入会すると多くの先輩から登山に関わる知識や登山技術を実践で学び、共に行動をすることで組織や仲間意識を共感し、より困難を求めて、高みへと続く山々にチャレンジしたものです。そんな魅力ある組織が高齢化と若年層の入会者減少により衰退している現状を憂えています。

改めて組織の存在を問いかけたい。埼玉支部は、2010年に30番目の支部として創立されました。組織は何らかの使命を託され、それを実現するために存在しています。しかし、時間を重ねると、その組織がそもそもいかなる存在で設立されたのか忘れてしまう。そして、いつの間にか、何のために組織が存在するのかを問うことを忘れて、「どういう組織であるべきか」かが問われています。是非、埼玉支部の創立趣意書をご一読いただき、一人ひとりが、組織を支える役割を考えていただきたい。

それから役員改選期を迎えるたびに、高齢や経験不足、繁忙を理由に支部委員に推薦（推挙）されても難色を示し、人選が進まない現実があります。会員として、組織に加わることは「権利」と「義務」が生じることは理解されていると思いますが、組織運営に協力的とは言えない会員が少なくありません。多忙を事由にされては困るということです。立場や環境は違っても条件は同じです。

基本的には、各委員会で委員長及び副委員長の選出は責任を持って行なう。支部役職についても、後任者を選出する努力をお願いしたい。速やかな交代が望ましいと考えています。また、支部役職や各委員会の委員長、等が交代すれば、本来なら累積された資料や書類、段取り、等の引継ぎは対面で行なうのが通常だが、現状はマニュアルもなく当事者間のやり取りで済ましていることに危機感を感じています。

役員の高齢化で病気や事故で業務の遂行に支障が生じることは容易に想定ができます。そんな不安を解消するためには、誰でも引き継げるマニュアルの作成が必要だと判断しています。

また、第6期埼玉やま塾（机上・実技）が11月9日で終了しました。この講座は、新会員の入会促進には大きな効果があります。魅力ある組織を構築すれば、魅力ある仲間が集います。そのために日々の努力を重ねたい。

人生という有限の時間を共有する中で、自分の余暇や趣味として、登山を選択して集い、それぞれの目的や目標に向かって、登山経験や共通の研究課題に研鑽を重ねる。そこに、仲間意識や信頼関係が構築され、組織の活性化や人間としての成長に繋がるのだと思います。組織の魅力は、個々人が登山の現場や各種研究で培った行動や発言が共感を呼ぶのだと思います。

そんな魅力ある個性豊かな埼玉支部を構築するのは、在籍する会員諸氏です。今後のご活躍を期待しています。

【山行報告】 6 月 月例山行「笠取山」**山行委員 宮田しのぶ**

◆日程 2024 年 6 月 16 日 (日) 曇時々晴れ

◆場所 笠取山 1,953m

◆参加者 町田美春 (CL)、古川史典 横山真一 稲越洋一 浅田稔 塚越和子 磯崎佳奈
田中利昌 平本真二郎 平本美恵子 水野千秋 宮田しのぶ (SL) 12 名

◆集合 9:00 作場平登山口 ※トイレあり 自家用車にて乗り合わせ

◆行程 9:00 作場平登山口→9:25 一休坂分岐(5 分休憩)→10:25 ヤブ沢峠(5 分休憩)→10:48 笠取小屋(昼食)11:13→11:26 雁坂分岐 (5 分休憩) →11:55 笠取山(西峰)12:06→12:16 笠取山(東峰)12:21→12:56 水干→13:10 雁坂分岐→13:31 笠取小屋(トイレ休憩)13:40→14:34 一休坂分岐→15:00 作場平登山口 《行程:約 6 時間弱(休憩含)9km 強》

◆装備 日帰り登山装備、雨具、ライト等、救急用品、トランシーバー

◆行程概要

CL 町田さんの調整により全員が車に乗り合わせ、公共交通機関を使わず集合した。8:40 分到着にて駐車場は満車。早目に到着してくださった稲越さんのお陰で、なんとか駐車できた。夜中から降り続いた雨も到着時には止み、時々日差しが出て日射がきつく感じる天気。緩やかな登り道で楽しい会話をしながら良いペースで進めた。



一休坂分岐



分水嶺(多摩川・荒川・富士川)



笠取小屋休憩



笠取山《名物》急登



笠取山山頂 1



笠取山山頂 2

しかし、頂上直下の急登では嘘の様に会話が無くなる。足場はしっかりしており、息切れしながらも登頂。3つの河川の分水嶺を確認。登頂後、西峰から東峰へ。岩場の多い尾根が続くが、ベテランの方々のサポートがありスムーズに通過。水干で多摩川の水源一滴を見ようと目を凝らした。最後は緩やかな下り道。お花や景色を楽しみながら、和やかな雰囲気楽しく下山できた。

【参加者感想】

■町田美春:心配された雨も上がり、気持ちよく歩けました。残念ながら眺望は望めませんでした。多摩川の最初の一滴も見ることができませんでした。笠取名物の急登は辛かったけど、皆で楽しく安全に登山ができて本当に良かったです。

■稲越洋一:2015年の笠取山支部山行以来の参加です。前回同様、梅雨間近の山行で天気が心配でしたが、前夜の豪雨も上がり晴れ間も時々出る爽やかな山行となりました。CL/SLの各ポイントでのリードも見事で、参加された皆さんも楽しめたと思います。多くの登山者の他に、トレランのイベントも開催されており、人気の山である事がうかがえました。溪流沿いの登山道は、紅葉時期には見事に色づく木々が多く、秋にも訪れたい山ですね。

■古川史典:近頃山に行く日は、必ず雨模様で今日も空から水が落ちてきた。仕方ないとあきらめ集合場所の作場平に着くと曇りとなり一安心。しかし景色は見られずとも、会員12人と登山が楽しめましたよ。ありがとうございました。

■平本美恵子:壁のように見える山頂に続く登山道を歩いてみたいと思っていました。写真でみるより実際はハードな急坂で、二つ目のピークまでは岩もあり面白い山でした。笠取小屋までは穏やかな木漏れ日の中をのんびりと歩きながら会話を楽しみ、水干では運よく多摩川の最初の一滴を見ることができました。楽しい山行をありがとうございました。

■平本真二郎:笠取山は自宅から登山口までは約85^{キロ}と距離は短いものの、一般道のみで多摩湖を経由してワインディングロードを走り、更に林道を登りようやく笠取山登山口へ到着しました。山行メンバーと合流し登山開始、登山道はよく整備されていてとても歩きやすい道で、沢を何回も渡る木の橋が連続した後に、尾根に繋がる変化もある気持ちの良い道でした。頂上手前で急登が現れ、最後に笠取山の洗礼を受け苦しみながら頂上へ到着しました。頂上ではメンバー全員が笑顔で記念写真に納まり、元気をもらい楽しい山行となりました。

■浅田稔:以前から行きたいと思っていた山。募集定員オーバーのようでしたが、何とか参加させていただきました。東京の水源地という事で道は整備され、歩き易いコースでした。ただ、最後の急登で前を行く遅い団体ツアーをペースアップして追い越し、そのままのペースが維持され、さすが

に、私には速過ぎました。雨が上がったのは良かったのですが、雲が取れず周りの眺望を得られなかったのは残念でした。

■**水野千秋**:前夜から朝までかなりの雨が降ったのに、着いた駐車場はほぼ満車状態。東京都水道局により整備された山道は大変歩きやすく、たくさんの登山やトレランを楽しむ方々と出会い、人気の山だと実感しました。多摩川の最初の一滴を見、多摩川・富士川・荒川 3 つの河川の分水嶺を大変興味深く確認。頂上に至る長ーい急登を汗だくで登り、頂上からの岩場をヒヤヒヤしながら降り、九輪草やシロバナノヘビイチゴ、楓やモミジなどの新緑を愛でることができました。曇り空で眺望には恵まれず少し残念でしたが、バラエティに富んだ笠取山、楽しかったです。CL 町田さん、SL 宮田さん、皆様ありがとうございました。



九輪草



シロバナノヘビイチゴ

■**塚越和子**:少し雲の多いお天気でしたが、笠取山の登山道は、大変歩きやすく楽しめました。頂上直下の急登、その後の岩場、景色こそ楽しめませんでしたが、変化に富んだ山でした。

■**田中利昌**:《初めての山行参加です》私は今年 4 月に入会して初めての山行参加でした。この地域は奥多摩までしか出掛けたことがなく以前から気になっていました。早朝からの降雨で雨具での登山になると覚悟していましたが、登山口についた時点で止んで、雨上がり後のスタートとなり、この時期としてはむしろ涼しくて快適な山行になりました。私は単独での登山では無理をしがちで休憩・水分補給もいい加減で登山後に筋肉痛になることが多いのですが、最適な登山ペースで適度な休憩を入れて頂いたおかげで筋肉痛は軽微です。登山経験談や植物の説明を聞きながらの登山は時間を忘れ、あっという間に山頂にたどり着いた気がします。皆様お世話になりました。

■**磯崎佳奈**:笠取山、久々の山らしい山でしたがいいところでした。初夏の爽やかな緑が作ってくれる酸素が本当に心地よく、山頂の後少しだけ岩場もあり、達成感も追加されて精神衛生的にとっても良い山行でした。ありがとうございました。

■**横山真一**:朝、家を出る時、雨だったので登山が心配されましたが、集合場所の作場平に近づく頃から晴れてきて 1 日中雨にならず良い山行ができました。笠取山は埼玉県奥地の奥地にありましたが登山道が整備されていてとても歩きやすい山でした。東京都が管理する多摩川の最奥の水源である水干沢、そして富士川 荒川 多摩川の 3 つの分水嶺があることも知る事ができました。山頂から岩場でのシャクナゲの道やクリンソウ、シロバナの蛇イチゴの花も印象的でした。紅葉の頃もいいと思いました。このあたりも又鹿の被害が多くあると山小屋の人から聞かされました。笠取山は初めての山でしたが、気持ちよく登ることができました。同行されました皆様そしてリーダーの町田さん、サブリーダーの宮田さんありがとうございました。

【山行報告】 7 月 ウェルカム「山研・岳沢」**山行委員 稲越洋一**

もう恒例と言っても良いかもしれない、上高地の山研泊を絡めた支部山行を、7/13～7/14 に開催しました。原則、目的の山は「焼岳」ですが、今年は火山活動が活発化しており、松本市／高山市の各自治体から登山自粛の通達が出ているため、残念ながら「岳沢」山行に変更いたしました。

前日まで梅雨末期の大雨が続いており、天気予報の流れから、7/13 当日も降雨覚悟で集合しましたが、何故か、奇跡的な好天(午前中はほぼ快晴)に恵まれ、眺望やお花など楽しみながらの山行となりました。

過去の支部山行「焼岳」は常に降雨に見舞われ「焼岳登山」そのものが試練(降雨)の山なので、は！？

今年の山研泊では、参加者の女性陣が食事に腕を振るってくださり、当初はレトルト食品のみだったのですが豪華な食事を楽しむ事が出来ました。参加者の皆さまのご協力にも感謝いたします。

翌日(7/14)は、自由行動として、一部のメンバーで徳本峠に行く予定でしたが、天候は一変、予報どおり朝から強い降雨となり、昨年に引き続き明神散策に変更、有名な「山のひだや」で「スイーツ」を堪能しました。山研の初体験者は、山研を大いに活用して登山ライフを楽しんで頂きたいと思います。

■行 程 令和 6 年 7 月 13 日 (土) ～14 日 (日)

■場 所 北アルプス 岳沢

■宿泊場所 日本山岳会 上高地山岳研究所

■集合場所 上高地 バスターミナル 午前 7 時 00 分

■参加者 芦沢絵美子、田中利昌、鈴木晴雄、吉田由美、東洋子、小玉和孝(SL)、稲越洋一(CL)

【行程】

(一日目) 歩行距離：約 8.1km 累積標高差：約 700m

● 7 月 13 日 (土) (休憩を含む)

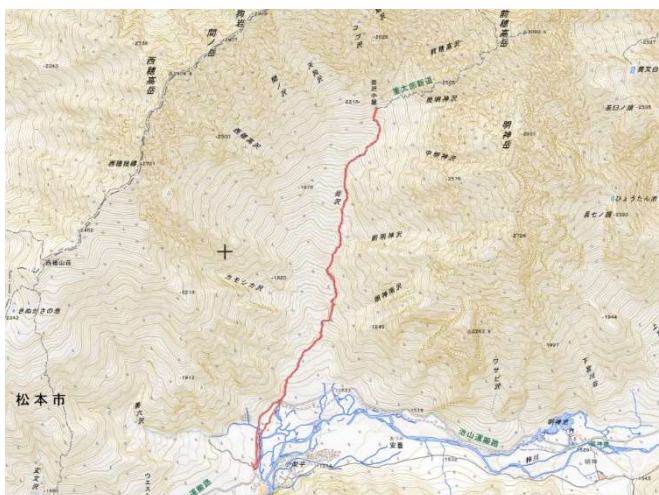
上高地 B.T.(6:40)～山研(7:00)～風穴
(8:10)～岳沢小屋(10:00)～第 1 お花畑
(往復 30 分)

岳沢小屋(11:10)～風穴(12:20)～岳沢
登山口(13:00)～岳沢湿原～上高地(山
研)(13:20)

(二日目)

● 7 月 14 日 (日)

終日、降雨が激しいとの予報で「徳本峠」
山行は中止とし、明神「山のひだや」を
目指したスイーツ散策に変更(好評でした)。
山研で解散。



ルート (出典：国土地理院 Web 地図)



河童橋にて・焼岳遠望



風穴



ゴゼンタチバナ



乗鞍岳・霞沢岳遠望



河童橋遠望



岳沢小屋展望台



第1 お花畑にて



山研で豪華(笑)な夕食



山研入口にて

【参加者の感想】(順不同)

【芦沢絵美子】雨予報から一転、奇跡的な晴天に恵まれた 13 日の上高地と岳沢の美しさに感動しつつガレガレの石の厳しさも身をもって体験し、今一度足の置き場に注意が必要だと認識しました。初めての山研では、食事もレトルト以外に東さんや吉田さんのお陰でおいしい手料理が添えられ、楽しく乾杯できた事に非常に感謝しております。焼岳が本気を出さない内に、またいつかチャレンジしたいと思います。

【田中利昌】初日の岳沢小屋登山は晴天に恵まれました。樹林帯では小鳥の囀りを聞きながら風穴の冷気に癒され、また各所の展望箇所では見上げれば穂高の岸壁が、見下ろせば上高地をはじめ噴煙を上げる焼岳、乗鞍岳等眺望も最高でした。2 日目の徳本峠は残念ながら降雨により明神までのハイキングとなりましたが次の機会に期待したいです。山研では女性参加者の方々の手料理も振舞われ贅沢な山行ができました。皆様ありがとうございました。

【吉田由美】今年の焼岳山行は、登山規制により岳沢山行に変更になりました。朝から晴天！登っている途中にとってもキレイな焼岳が見えて、残念だったなと、思いながらも沢山咲いているゴゼンタチバナに癒されたり、岳沢小屋から見上げる景色も迫力があって素晴らしかったです。山行委員の皆さま、参加者の皆さま、お世話になりました。今回は、東さんが食材を準備してくださり夕食はとても豪華で美味しかったです。有り難うございました。

【東洋子】また！雨かな、と思って支度をして家を出ました。焼岳の登山自粛通達で、登山を中止したので・・・もしかしたら？と、思ったら、晴れました。河童橋から望む、朝日に照らされた焼岳の綺麗だったこと。中の湯に泊まって、同じ頃に宿を出た人たちは・・・などと、思いを馳せていました。この好天の下、変更になった岳沢へ向かいました。ここも、素晴らしい景観。目の前にジャンダルム、奥穂高岳。右の傾斜が前穂の吊尾根。山岳雑誌の表紙の景色。私には、もう無理だなあ！と、感じました。ここまでのハイキングくらいが、私には適しているかな？と・・・最近、転びやすくなって、スネは傷だらけ！お花畑にも足を伸ばして、岳沢を楽しみました。2 日目は、また雨。

【鈴木晴雄】4 月に埼玉支部に入会して、今回初めて山行に参加させていただきました。変更プラン 1 日目の岳沢往復は、梅雨の合間のその日だけ晴れと言うラッキーに恵まれ、快適な山歩きができました。また、何年ぶりの山行であり、自身の体力の現状を知る良い機会でもありました。山研での宿泊も素晴らしかったです。山研は宿泊施設としてよく整っており、何よりも東さんを中心に準備していただいた夕食時のおかずは、山ではこれ以上望めないほど豪華でした。参加人数が少なめだったこともあり、同行の皆様との交流も大いに楽しめました。山歩きの最後尾で全参加者(特に私のような高齢者)の安全を見守っていただいたサブリーダーの小玉さん、今回のプランの計画・実行に尽力されたリーダーの稲越さんに感謝します。

【小玉和孝】前夜小雨の中を自車で川崎を出発。沢渡駐車場で仮眠後、目覚めると予想外の晴天。タクシーで上高地に入ると、20 数年ぶりの絶景に出会うことが出来ました。山研が河童橋から本当に近いところにあることにビックリしました。晴天の中、岳沢小屋までの往復は眺望良好で楽しい山行でした。午後 2 時過ぎには山研に戻りゆっくりとティータイム、夕食は女性参加者の手作り料理を満喫することが出来ました。女性参加者の皆さんありがとうございました。今回は、「山研の宿泊体験」、「参加者との懇親」、大変有意義な山行でした。

【山行報告】 8 月 月例山行「白馬岳」**山行委員 岡部勇人**

今回は、5 人で台風 10 号の接近と大雨予報の中、ずぶ濡れ覚悟での山行となりました。1 日目は、台風の影響もあり高温多湿での急登により、体力を消耗した日となりました。

2 日目は、雨の予報であったため、ヘッドライトを点けて午前 4 時に山荘を出発しました。遠くには雲の上の槍穂高、近くには立山連峰を望める頂上に登頂できました。

一方、下山時は、小蓮華山から予報通りの雨となり、ずぶ濡れになりながら拇池自然園のロープウェイ乗り場に無事到着しました。2 日目の行動時間は 10 時間強でしたが、参加者の協力で無事終了したことに感謝いたします。



1 日程 8 月 24 日（土）～25 日（日）一泊二日

2 場所 北アルプス 白馬岳（2932m）

3 参加者 CL 古川史典、SL 岡部勇人、町田美春、小玉和孝、宮崎則子

4 天候 [8/24] 晴れ時々曇り、風ほぼなし [8/25] 晴れ時々曇り、のち雨、風はほぼなし

5 コースタイム

24 日（土）8:30 拇池高原ロープウェイ乗り場→10:10 天狗原→11:40 白馬乗鞍岳→12:30 白馬大池山荘（泊）

25 日（日）4:00 大池山荘→5:45 小蓮華山→7:25 白馬岳→9:05 小蓮華山→10:40 大池山荘→12:10 白馬乗鞍岳→13:15 天狗原→14:30 拇池自然園ロープウェイ乗り場



白馬大池



白馬岳山頂

【参加者の感想】

■町田美春：初めての白馬岳、感動しました。絶景を堪能できました。雷鳥にも会えてラッキーでした。下山は雨に降られてしまいましたが、それもまた良い思い出です。

■小玉和孝：「台風 10 号の影響で素晴らしい雨中の山行を覚悟しておりましたが、太平洋高気圧が強まり、予想された台風の進路は西よりに移動したため、思った以上の好天での山行でした。山小屋からの夕焼け、小蓮華山～白馬岳の稜線からの絶景は忘れがたいものとなりました。また、山行参加者との楽しい時間を過ごせたことに感謝です。古川さん（CL）、岡部さん（SL）ありがとうございました。今後とも支部山行には、積極的に参加して行きたいと思います。」

■宮崎則子：酷暑の登り、小蓮華から白馬山頂への気持ちの良い稜線歩き、山頂からの展望、雨中の下山、湿原、岩稜地帯（私の最も苦手な所）、バラエティに富んだコースは、私には辛さ＋楽しい山行でした。CL 古川さんは適時、休憩ポイントを指示。休憩中には山の地質や標高、雪溪や氷河、高気圧や低気圧の話等、興味深かったです。SL 岡部君は先頭で時々振り返りながら皆のペースを保って歩いてくれました。山小屋を出るときには使用した寝具をチェック。皆の忘れ物の確認まで。一行 5 名のこぢんまりした山行で、和気あいあいの雰囲気でした。ありがとうございました。

■CL 古川史典：今回は、気象変化の激しい 2 日間でしたが、参加者の行いの賜物で、白馬大池から頂上までの間と頂上では、北アルプスの素晴らしい景色を見ることができた 4 回目の白馬岳でした。



【山行報告】 9 月 月例山行「宝永山」**山行委員 渡辺徹也**

- ◆日程 2024 年 9 月 12 日 (木)
- ◆場所 宝永山 (2,693m)
- ◆参加者 坂倉理恵 (CL) 渡辺徹也 (SL) 大野国光 萩原みか 磯崎佳奈
- ◆集合 7:00 入間市駅と飯能駅に各 1 台 計 2 台に分乗
- ◆コースタイム 富士宮口五合目駐車場 10:00 発→10:40 六合目宝永山荘
→11:00 第一火口縁→12:10 宝永山頂→12:30 馬の背→13:00 第一火口 (昼食)
13:30→第一火口縁→13:50 第二火口縁→ (樹林帯を通り)
→14:20 富士宮口五合目駐車場 *行程 約 5 時間 (休憩含) 5.4km

◆行程概要

今回は、5 名での山行となった。移動中の車中から見る富士山は、上部が雲の中に隠れ、眺めは期待できないのかと思われた。富士宮五合目登山口から上では、時々雲が切れるかもと淡い期待を抱き、登山開始。宝永山頂に向かう道中で見えたのは、富士山頂か定かではないが、上部の山肌の一部を見られた。

**ここから登ります**

また、宝永第一火口と第二火口を通った時は、霧に囲まれ、火口の全容は見られなかったものの、一部を見られ、宝永火口の中にいる実感を味わえた。昼食は、風が穏やかな第一火口にベンチがあり、ゆっくりと摂った。

**宝永山山頂****道標がしっかりしています**



第一火口でお昼



宝永山へ向かう道

ザクザクとした足元で、富士山頂への登山道と似た感じ

行程の前半に少し雨が降り、雨具を一度着たが、汗が出始める前に雨が上がり脱ぐことができ、比較的楽な山行だった。富士山頂へ通じる登山口が閉鎖されて直ぐの日程で計画したので、交通規制を受けずに五合目駐車場に駐車でき、富士登山の喧騒には巻き込まれずに行くことができた。天気の良い日にまた訪れたい山である。



第一火口から馬の背方面を臨む

◆参加者の感想

【大野国光】

雨に降られなくて良かった。期待した富士山頂、相模湾等の眺望が、ガスでほとんど見られなかったことはちょっと残念でした。

【萩原みか】

宝永山は数年来の私の念願でした。膝を痛めてから、リハビリをして調子を見る今年の1つの目標で、とても楽しみにしていました。6合目雲海荘を過ぎ、宝永山を目指してまず第一火口へ下る。火口の底に居ると思うと不思議な気分。そこから、登りに苦戦して宝永山山頂になんとか辿り着いたが、雲に囲まれ残念。絶景とは行かなかったが時折の青空に恵まれた。さて、下りはもっと足が取られる。まだ下りに不安があるので、ストックを使ってもなかなか難しい。2回も見事な尻もちをついた。必死でも手足がバラバラで『ストックも三点支持で』とアドバイスをいただき、バランスと気持ちを立て直す。第二火口からは分岐して深い大自然の林道から無事下山。山行担当者とメンバーのおかげで魅力的な宝永山を満喫させていただきありがとうございました。

【磯崎佳奈】

足元グダグダの宝永山、楽しかったです。濃霧で絶景は見られませんでした、富士山を近くに感じることができました。あの滑り落ちる下山は結構楽しい！

【坂倉理恵 (CL)】

下界は9月の記録を更新するほどの猛暑と、爽やかな青空を仰いでいるにもかかわらず、中央道から見えた富士山は厚い雲の中でした。駐車場に到着した時、思わず「寒っ！」と声が出ました。皆さんに見て頂きたかった雲海や、間近に迫る富士山山頂は、霧が流れたほんの一瞬だけ。それでも雨風共にほぼ無い状態だったので贅沢は言えませんが、少人数で和気あいあいとした雰囲気の良い山行でした。良いメンバーに恵まれました。皆様ありがとうございました。

【山行報告】 10月 月例山行「北アルプス 常念岳・蝶ヶ岳縦走」

山行委員 宮内有加

10月5日～6日、10名で常念岳～蝶ヶ岳を縦走してきました。8月、下見に行った時期の大雨のために、一の沢登山口の駐車場に向かう道路が陥没し、通行止めになってしまいました。

1日目は、穂高駅に6時半に集合し、タクシーで陥没道路の手前まで行き、そこから徒歩で一の沢登山口へ向かいました。穂高駅に集合した時には小雨が降り天気が心配でしたが、一の沢登山口ではレインウェアも脱いでスタートできるぐらい天気が回復しました。前日の雨の影響もあり、登山道の一部は沢沿いではなく、山を高巻するコースもありました。常念小屋に近づくにつれて、天気はどんどんよくなり、常念乗越に着くと、目の前には槍ヶ岳～穂高連峰の山々がどんと見えました。常念小屋のテラスで夕食までのんびりと山の話をして盛り上がりました。

常念乗越→

2日目は5時前に常念小屋を出発し、常念岳を目指しました。常念小屋をスタートする際には、常念岳の上空にはオリオン座が見え、常念岳を目指して登る先行したツアー客のヘッドランプが綺麗に見えました。ところが徐々にガスが増え、辺りは真っ白に、、、。しかし山頂に到着する頃は、ガスが晴れて、槍ヶ岳の山頂がうっすら見えました。ブロッケン現象も見ることができました。常



念岳から下山し、蝶ヶ岳を目指すと、すっかり雲がとれ、槍ヶ岳～穂高連峰の山々が姿を現し、大絶景の中、縦走を楽しむことができました。又、途中、雷鳥を見ることができました。常念岳から蝶ヶ岳までは、何度かアップダウンを繰り返し、なかなか大変でした。しかし槍ヶ岳から続く穂高連峰の大パノラマが疲れを忘れさせてくれるぐらい素晴らしい景色でした。稜線を吹く風は冷たく、紅葉も真っ只中で、北アルプスはもうすっかり秋でした。

常念岳山頂

蝶ヶ岳からは、三股登山口に下山しました。階段が多く、疲れた足にはなかなか堪える下山でしたが、10 名全員の足並みも揃い、ほぼコースタイム通りに三股登山口に到着することができました。あらかじめ手配していたタクシーに乗り、穂高駅で解散となりました。

2 日目は 11 時間を越えるハードな山行となりましたが、参加者全員が無事に縦走することができたことに感謝しています。ありがとうございました。



蝶ヶ岳山頂

【行程概要】

- 1 日程：2024 年 10 月 5 日(土)～6 日(日) 一泊二日
- 2 場所：北アルプス 常念岳(2,857m)、蝶ヶ岳(2,677m)
- 3 参加者：C L 小玉和孝、S L 宮内有加、平本真二郎、平本美恵子、松尾渡、稲越洋一、町田美春、磯崎佳奈、行方真由美、宮崎則子
- 4 天候：[10 月 5 日(土)]くもり時々晴れ、風ほぼなし [10 月 6 日(日)]晴れ、風ほぼなし
- 5 コースタイム
5 日(土) 6:30 穂高駅→7:00 一の沢登山者第 2 駐車場手前→8:00 一の沢登山口→13:00 常念小屋
6 日(日) 4:45 常念小屋→6:05 常念岳→11:00 蝶ヶ岳→12:30 蝶ヶ岳→16:30 三股駐車場→17:10 穂高駅解散



常念乗越からの眺望



常念小屋での憩い



常念岳山頂(ブロッケン)



雷鳥



穂高・槍の眺望



蝶ヶ



穂高連峰



槍ヶ岳



蝶ヶ岳到着

【参加者の感想】

■町田美春：念願の常念岳山行は、お天気に恵まれ稜線が青空に映え、紅葉もありとても満足な山行でした。槍ヶ岳をまじかに見ることができ、北アルプスの絶景を思う存分堪能することができました。三俣登山口への下山は、階段が多くきつかったですが楽しい山行でした。

■行方真由美：1 日目は一ノ沢から常念小屋まではきつい登りでしたが常念乗越に着いた時は雲を抜けて青空の先に槍ヶ岳などの山並みが見えた時は感動しました。常念小屋では半日ほどのんびりと過ごす事ができて山での充実した時間となりました。2 日目の常念岳から蝶ヶ岳への稜線からは槍ヶ岳～北穂高岳まで雲一つない絶景を何度も見ながら気持ち良く歩く事が出来ました。山小屋での語らいとか景色をゆっくり楽しむ山の楽しさが沢山詰まった 2 日間でした。担当者の方々と参加者の方々に感謝いたします。

■宮崎則子：常念岳は前から行きたい山でした。今回の山行は常念岳～蝶ヶ岳の縦走で 2 日目は約 10 時間の行程。少し不安でしたが、結果は大満足でした。CL 小玉さん SL 宮内さんの綿密な計画と、ペース配分、更に最高の晴天にも恵まれ、全員無事に下山出来た事が何よりです。ありがとうございました。

■松尾渡：今回の登山は好天に恵まれ、清々しい空気を味わいながら北アルプスの山々を見渡すことができた。一日目は一の沢の登山口を 8 時に出発して、黄葉(紅葉とまで言えない)が始まっているのを目に留めながら常念小屋に 13 時半前後に予定通り到着できた。槍ヶ岳・穂高連峰の大景観を眺め、山頂でリラックスできた。二日目は小屋を 5 時前に出発して岩稜を乗り越えながら常念岳を目指す。途中ご来光を仰ぎ、さらに只這うようにして登っていく。狭い頂上で写真を撮った後、蝶ヶ岳を目指す。歩行途中で雷鳥に会い、癒される気がする。今日は蝶ヶ岳まで巨岩の重なる稜線を鞍部まで下り、登り下りの二山を経て、歩行時間 10 時間を要する長丁場であり、三股下山口までが遠くまた全員の足が遅くなるのを感じる。今回も幹事の皆様のお蔭で、全員無事安心安全に下山できたことに大変感謝します。

■平本美恵子：右手に槍ヶ岳、穂高連山、涸沢カールを見ながらの常念岳から蝶ヶ岳の縦走はあこがれでした。山頂を目指して登る途中から霧が流れてきて今回も常念岳からの景色は無理かなと諦め始めていました。が、ピーク直前では霧がサーと晴れそれから、クリアな空気で周りの山々が

すべて見え最高の山行になりました。常念岳から下る途中では、大好きな雷鳥にも会えて幸せだな～を、かみしめながら岩を乗り越え下り、また登りを繰り返し汗だくになりながらも、素晴らしい景色で疲れも吹っ飛ば楽しい山行でした。

■平本真二郎：十数年ぶりの常念岳、蝶ヶ岳山行、前回の記憶が薄い中での登山を開始し、大きく崩落した箇所には驚き林道をしばらく進み、ようやく登山口に入りました。沢沿いの道を幾つもの渡渉を経て進んで行くと、樹林谷の間から常念岳の山頂が見え隠れしながら、常念乗越に到着するといきなり、槍ヶ岳、穂高の壮大な山が現れました。参加メンバー全員で感動の歓喜が上がりました。その後、常念小屋に入りテラスで槍ヶ岳を正面に見ながら生ビールでの乾杯は至福の時間でした。翌日の蝶ヶ岳に向けての稜線歩きでは、真っ青な晴天に恵まれ絵に描いたような槍ヶ岳、奥穂高岳見ながら紅葉も含めこれ以上ない最高の山行となりました。

■磯崎佳奈：天候に恵まれ、絶景を堪能した素晴らしい山行でした、が、一年のブランクをなめました。皆様の足を引っ張る結果となり、大変申し訳ありませんでした。鍛え直して来ますのでまたよろしくお願い致します。

■宮内有加：日本山岳会に入会し2年目。今回の常念岳・蝶ヶ岳の山行が月例山行初参加となりました。山岳会のことを何もわからないままSLをさせていただきました。CLの小玉さんにはおんぶにだっこでたくさん負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。また、稲越さんには、ペース配分やコースタイムの設定の仕方等、山を歩きながら詳しく教えていただき勉強になりました。私は、長野県大町育ちなので、大好きな北アルプスの山々を埼玉支部の皆さんと一緒に縦走することができ、大満足です。今年は、下見も含め、2回も常念岳～蝶ヶ岳を縦走することができました。同じ山でも季節により見える景色が異なり、時に本番では、素晴らしい景色を見ることができました。また来年、埼玉支部の皆さんと一緒に北アルプスに登れたらと思っています。

■小玉和孝：下見した時に2日目の行程が思った以上に長く予定通りの山行が出来るか心配でしたが、天気にも恵まれ全員無事オンタイムで下山出来た事、皆さんに感謝です。これからも、埼玉支部の皆さんと楽しく安全な山行を続けて行きたいと思います。

■稲越洋一：信州エリアに観光で行くと何時も思うのは、安曇野界限から望む「常念岳」、「前常念岳」を前衛とした姿形が美しく、登山意欲だけでなくフォトジェニックな山だと感じる事です。以前の支部山行で蝶ヶ岳から常念岳への縦走があったのですが参加できず、今回の常念岳から蝶ヶ岳への縦走は楽しみでした。初日の登山開始時は曇り(霧)模様でしたが、登るにつれ、どんどんと晴れて来て、常念小屋ではほぼ快晴に！素晴らしい眺望が待っていました。翌日も早朝から快晴となり常念岳山頂からも素晴らしい眺望が望めました。蝶ヶ岳への縦走もパノラマ表銀座にふさわしく飽きる事のない絶景を眺めながらの行程で、過去に登った常念・蝶の中でも今回が最高でした。参加された「晴れ男」「晴れ女」(誰でしょうか！?)に感謝です！

【山行報告】 10 月 月例山行「高妻山・飯縄山」**山行委員 那須朋美**

行程初日の 10/12(土)、2 台の車に相乗りおよび、1 人乗り 2 台で宿泊先のペンションに 15 時集合。荷物整理の後近くの温泉へ出向き、夕飯を終えペンションに戻り高妻山の最終打ち合わせ。高妻山登山口駐車場が混むことを予想して 10/13(日)4 時ペンション発として早めに就寝。

10/13(日)高妻山。早朝 4 時、予定通りペンションを出発し高妻山登山口駐車場へ向かい、4 時半駐車場着。前日の読み通りすでに 9 割方埋まってました。日出前の薄明の中、駐車場を出発。弥勒尾根登山口からはひたすら登る、登る、登る。楽しいお喋りやマイナス思考の呟き、所々に現れる心癒される紅葉・・・を繰り返しながら高妻山頂上に無事到着。山頂はガスガスでしたが、沢山の登山者がいらっしゃいました。汗冷えを心配しながら軽く山頂で休息と昼食をとった後は、滑る、滑るの下り登山道を声を掛け合い慎重に下山。八丁ダルミを過ぎるとガスもとれ、焼山・火打山、妙高山、黒姫山、飯縄山、戸隠連峰の絶景にテンション上がりっぱなしの楽しい山行となりました。



10/14(月)飯縄山。ペンション 5 時 40 分発、6 時 5 分、一の鳥居からアタック開始。前日の長く苦しかった高妻山の緊張から解放されつつも、若干の足の疲れに不安を覚えながらの山行となりましたが、石仏めぐりを楽しみながら山頂到着。山頂からの 360° の大パノラマの絶景に、寒いと凄いが止まらない興奮状態になりつつ、ちょっと長めの休憩をとり、10 時下山開始。事故もなく無事に 2 日間の行程を終えました。

**【行程概要】****10 月 13 日 高妻山**

ペンション 4:00 → 戸隠キャンプ場前駐車場 5:25 → 高妻山登山口 6:00 → 分岐(尾根コースへ) → 分岐(五地蔵山)8:45 → 11:20 高妻山 11:50 → 分岐(五地蔵山)13:40 → 15:50 登山口(下山)

10 月 14 日 飯縄山

ペンション 5:40 → 一の鳥居苑地駐車場 6:05 → 駒つなぎの場 7:40 → 9:20 飯縄山 10:00 → 駒つなぎの場 11:05 → 12:10 一の鳥居苑地駐車場(下山)

※参加者：CL 朝井、SL 那須、稲越、平本(真)、平本(美)、塚越、松尾、田中(利)、小玉、町田

【参加者の感想】

■秋晴れの快晴のなか、気持ちよく高妻山山行に参加できました。前泊のペンションも美味しいハーブティや果実酒のサービスもあり快適に過ごすことができました。近くの温泉施設の食事も美味しく、こういう山行もよいなと思いました。初めての高妻山は、アップダウン、心臓破りな急登の連続で試練の山でした。しかし、稜線から見る飯縄山、黒姫山、火打山、妙高山、北アルプスの山々の絶景は圧巻でした。残念ながら高妻山山頂はガスで覆われ眺望は望めませんでしたが、紅葉も観られ楽しい山行でした。(町田)

■高妻山は、地味できつい山との印象が強く、内心、不安もありましたが、皆さんとの楽しい会話につられて登頂することができました。流石に最後の急登は、きつくてひたすら石を掴むことに集中！でした。それに比べ飯縄山、優しい歩きやすい山で、頂上からの 360 度の景色、感激して言葉を失うほどでした。登った山々が見えるって嬉しいものですね。素晴らしい山行でした。(塚越)

■1 日目の高妻山は以前から気になっていましたが、距離が長く急登であることなどで個人の山行では不安がありためらっていた山です。募集がありこの機会を逃すまいと直ぐ様申し込みました。比較的新しく整備された弥勒尾根のピストンでしたが、流石に上級コースで、急坂といくつかの登り返しで体力が削られた後の、九勢至からの激急坂には参りましたが、その分達成感はとても大きく、また妙高戸隠連山を眺めながらの下山は最高でした。2 日目の飯縄山では、頂上での富士山を始め日本アルプス等 360 度の大展望に参加者皆、大はしゃぎでした。計画・準備いただいた朝井 CL、那須 SL、参加者の皆様ありがとうございました。(田中)

■山行レベルの高い高妻山登山を無事終えて、大変嬉しく思います。天気は少し霧がかっていましたが、厳しい傾斜を一步ずつ登り頂上にたどりついた時の感動は「やったなあ」と年甲斐もなく自己満悦していたようです。二日目の飯綱山は仏の道を学ぶ行程で、戸隠の神社と合わせ人間の幸せ(極楽)を希求する大衆の欲求がよく理解できます。(松尾)

■久しぶりの高妻山、飯縄山への山行でしたが、登山コースの記憶が薄く新鮮な山行をすることが出来ました。特に高妻山では濡れた石と木の根に苦戦しましたが、頂上ではその苦しみが妙高山、火打山を眺めて笑顔へと変わりました。翌日の飯縄山では頂上で晴天に恵まれ、360 度のパノラマが広がり感動の景色を味わうことが出来、先週の常念岳に続き最高の山行でした。(平本真二郎)

■7 年ぶり 2 度目の高妻山でした。前回は雪が降りそうなどんより曇りで、景色は全く見えませんでした。スキッと快晴を期待して登りましたが…山頂付近は新潟側から雲が湧き、ちょっと残念な思いを残しつつ下山しました。が、途中からは周りの山々がくっきりと見える快晴となり明日登る飯縄山の稜線が見え素晴らしい景色の中、一緒に行った皆さんと歓喜の声を上げながら楽しく下山しました。アップダウンや急登、泥でズルズルの下り坂、高妻山は大変な山というのを実感しながらの下山でした。翌日の飯縄山は疲労の残った足で登れるか心配でしたが、360° パノラマの山頂

で北アルプスから日本海までゆっくり景色を眺められて感動でした。この山行に参加できた事に感謝です。ありがとうございました。(平本美恵子)

■自分の故郷である長野市に近い戸隠界隈はとても身近な場所です。戸隠山、高妻山、飯縄山は登っているのですが、今回は体力低下を心配しつつ、登山仲間との登りを楽しみに参加しました。前泊は近くに温泉(食事処)ありのペンションという贅沢さ。いつもの車中泊とは大違いのゆったりとしたスタートでした。素敵な企画を立てて頂いた朝井 CL には感謝です。高妻山は期待どおりの急登の連続で体力を使いましたが、疲労を残さない様ペース配分には特に気を遣いました。頂上からの眺望は、過去の山行同様、霧が掛かるコンディションでしたが、八丁ダルミまで下ると霧も晴れて、頸城山塊、北信五岳、戸隠連峰全景を見る事ができ感動！紅葉も綺麗に色付いていました。翌日の飯縄山登山は朝から晴れ渡り、「飯縄大権現」信仰の山らしく「十三仏」の石仏を辿りながら、山頂に到着。富士山、八ヶ岳、北アルプス等、また日本海まで見渡せる眺望を、参加者の皆さんとで楽しみ、最高の山行でした。(稲越)

■高妻山は、支部山行で後立山などに行った時に、諸先輩に指さして教わった山の一つで、ずっと気になり、今回企画させて頂きました。下見時は沢ルートも行ったのですが、支部山行としては安全をみて尾根ルート往復を選択。登り甲斐のある山で、ぜひ沢ルートも一緒に体験したかったです。翌日の飯縄山では、前日にガスで見られなかった後立山の他、富士山や八ヶ岳などパノラマで一望でき、心震えました！石仏を見ながらの参加者との会話が最高に楽しく、素敵な山でした。又、宿泊ペンションや日帰り温泉も良い所が見つかりほっとしました。(CL 朝井)

■天気にもめぐまれ、高妻山満喫出来ました。節目の百名山 50 座目を達成できて大満足です。それにしてもきつかったですが、皆さんと一緒に登ったのでおかげで折れずに登頂できました。きめ細かい山行計画、実行頂いた朝井 CL・那須 SL・稲越相談役、本当にありがとうございました。今後とも皆さんと楽しい山行を続けて行きたいと思います。(小玉和孝)

【山行報告】 11 月 月例山行「三ツ峠山」

会員 吉羽悠介

1. 日程 2024 年 11 月 10 日 (日)
2. 参加者 2 名：轟 涼、吉羽悠介
3. 天候 曇り一時雨
4. 行程 達磨石 8:40→八十八大師 10:25→四季楽園 11:15→三ツ峠山(開運山) 11:25→御巢鷹山 11:40→三ツ峠山荘→木無山 12:08→三ツ峠山荘 12:15 (13:20 まで昼食休憩)→八十八大師 13:55→達磨石 14:53

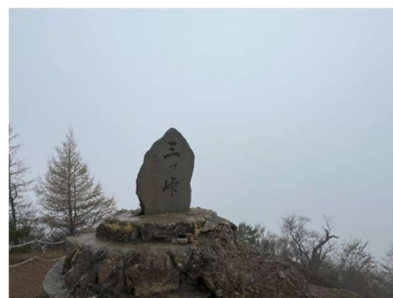
【山行概要】

本山行は当初 4 名で行う予定でしたが、2 名欠席となり、最終的には 2 名で実施することとなりました。

8:30 にいこいの森駐車場に現地集合、その後 1 台の車で達磨石駐車場に向かいました。いこいの森駐車場で待ち合わせをしている間の天候は曇りで時々小雨が降ったりやんだりして体を動かしていないと若干寒さを感じました。

8:40 に出発、落ち葉に隠れた石や木の根に注意しつつ、先ずは少しゆっくり目で登っていきました。馬返しを過ぎた辺りの赤や黄色の紅葉は見事で、それを楽しみつつ先を進みます。途中ですれ違った人に話を伺うことができ、前日の 9 日は三つ峠山荘でクライミング関係のイベントやコンサートを行い、大変盛り上がったとのことでした。

八十八大師の少し手前くらいからガスがかかり始め、この辺りから紅葉は見ごろを過ぎて散っていましたが、遠くの景色を見ることは叶いませんでした。ですが、霧のかかった八十八大師は幻想的で厳かな雰囲気でした。



11:25 に三つ峠山（開運山）山頂に予定よりも早めに到着。山頂もガスがかかっており、残念ながら富士山を見ることは叶いませんでした。時間があり、強い雨が降る様子もなかったため、三つ峠の名前の由来である他の 2 つのピークである御巢鷹山と木無山周回してから三つ峠山荘で昼食休憩することとしました。

11:40 に御巢鷹山山頂に到着。山頂標識は手作り感のある小さな看板が木にかかっており、見逃しそうになりました。

12:08 に木無山山頂に到着。山頂とは思えないなだらかな場所でしたが、大きな看板のような山頂標識がありましたので迷うことはありませんでした。



12:15 に三つ峠山荘に到着、山荘内で昼食休憩を取りました。その際、ご一緒になった別グループの方がバイオリンの生演奏を披露してくださり、山の中でバイオリンの演奏が聴けることへの驚きも相まって思わず聞き入ってしまいました。

13:20 に三つ峠山荘を出発。演奏に聞き入っていて思わず予定よりも長居してしまいました。濡れた岩や落ち葉に注意しながらの下山となりましたが、コースタイムよりも若干早いペースで進むことができ、最終的には予定よりも早い 14:53 に達磨石駐車場に到着できました。

落ち葉により踏み跡が覆い隠され、ルートが分かりにくくなっている箇所がいくつかありましたが、道迷いや事故・怪我等なく無事に山行を行えました。

【山行報告】11月 月例山行「天目山(三ツドッケ)」**山行委員 宮崎則子**

◆日程：2024年11月17日（日）

◆場所：天目山（三ツドッケ）1,576m

◆天候：晴れ

◆参加者：稲越、小玉、田中、塚越、朝井、CL 町田、SL 宮崎

◆行程時間：8:05 東日原バス停→10:51 一杯水避難小屋→11:27 天目山→11:54 一杯水避難小屋
（昼食）12:10→13:55 東日原バス停

今回の山行はアクセスがあまり良くなく、早朝集合に加えて帰りのバス時刻が決まっていた為か応募者が少なく、全員で7名でした。朝から晴天に恵まれ、11月とは思えない気温。登り始めの急登から汗が吹き出しました。皆さん山に慣れた方々だったので少々早目のペースでも構わず、杉植樹帯の九十九折をグングン登り、広葉樹が広がる稜線に出たところで一休み。赤く色づいた木々、黄色い葉々の広葉樹が陽を受けて青い空をバックに輝いていました。奥多摩の山々（蕎麦粒山、大岳山、川苔山等）を眺め、色とりどりの落ち葉を踏みしめて（落ち葉下の石や木の根に気を付けて）歩きました。帰りのバス時間を考慮し、昼食や頂上での写真は手早く済ませて下山を開始しました。急な下り坂でしたが転倒することなく全員無事に乗車予定のバスには十分に間に合うよう下山できました。

**【参加者の感想】**

■**朝井紀久子**：のどかで気持ちの良い紅葉を、会話を楽しみながら味わえた山行でした。秩父と奥多摩の県境に位置する峰々が右にも左にも繋がっていて、その中に2年前、支部山行で担当した蕎麦粒山を見た時、気持ちが高まりました。バス時間を意識して全員が足どりを速めに揃え、皆さんの健脚さに尊敬の気持ちを感じました。

■塚越和子：お天気にも恵まれ、秋の奥多摩を十分に味わうことのできた天目山でした。登山道は、歩きやすいのですが、狭く片方が切れ落ちてる道は、緊張しました。青空と紅葉した木々、奥多摩らしい道、落ち葉を踏む足音、全てが揃った山行になりました。

■小玉和孝：一週間前の天気予報では雨マークでしたが、段々と天気の良い方向に変わり、当日は小春日和で絶好の登山日になりました。最初は杉林の中を進み、稜線に出たところで目を見張る紅葉に出会うことができました。場所的に時間制限ある難しい山行でしたが、CL、SL 及び皆さんのおかげで、秋を満喫できた大変楽しい山行でした。

■田中利昌：初冬の時期に当たりますが、気温 20 度超えのポカポカ陽気での山行でした。ヨコスズ尾根、山頂での眺望も大岳山、川苔山、雲取山や富士山までと、なかなかであり、静かな自然林の中を気持ち良く歩けました。また、紅葉はベストタイミングで、カエデ類、ブナ、ミズナラ等色々な木が生えているので、赤・黄・橙・緑と色彩豊富でとても鮮やかでした。奥多摩も天目山のある長沢背後まで足を延ばすことは少なかったのですが、今度ゆっくり雲取山まで歩いてみたいと思いました。皆様お世話になりました。

■稲越洋一：自分の過去の山行の中で「奥多摩駅からバスで・・・」という行程は、ほとんど無く、休日・早朝、駅前の混雑は驚きました。人気の山城が多いという事でしょうか。天目山は遠く(伊豆ヶ岳辺り)から見ると、三つのピークにより一目で判ります。東日原から登るヨコスズ尾根は非常に歩きやすく、木漏れ日が紅葉／黄葉に映えて快適な登山でした。頂上付近は岩場もあり、眺望が開ける晩秋～初冬がお勧めですね。

■宮崎則子：紅葉時期の奥多摩駅バス乗り場は登山客で大混雑でした。途中の川乗橋バス停までのバスは乗客が詰め込み状態でしたが、終点東日原バス停行きのバスは余裕で全員座ることが出来ました。川苔山と天目山は同じバスの路線ですが人気度が違いますね。おかげで天目山登山はほとんど人に会うことも無く、私達独占状態でした。天気は風も無く晴れていたのが快適な紅葉登山日和。帰りのバス時間を気にしながらの山行だったので、少々速足で余裕がなかったのが残念でした。

■町田美春：澄み渡る秋空の下、皆さんと楽しく山行できました。奥多摩は紅葉の見ごろを迎え赤や黄色が青空に映えとても綺麗でした。11 月も半ばだというのに気温は高く歩くには少々暑かったですが、木陰は涼しく気持ちよかったです。帰りのバスの時間を気にしながらでしたが、無事に下山できバスにも十分に間に合う時間でホッとしました。



天目山(三ツドッケ)からの眺望

同好会 平日山行倶楽部 5 月～9 月 報告

番外編：轟さんお疲れ様会

評議員 高橋 努

5 月 赤倉温泉ユアーズイン (5 月 29 日～30 日)

高橋 努 記

5 月の平日山行は、本部山行委員会の「会員の宿を訪ねる山旅シリーズ」にドッキングした。参加者 14 名中、平日山行倶楽部から 8 名が参加した。

妙高山が、目の前に遮るものもなくドーンと聳える。オーナーの小笠原辰夫会員は、ある企業の保養所予定地だった隣地が売りに出ると、その広い土地をすぐ買い取ってしまったそうだ。「ここに建物が建ってしまったら妙高山が見えないでしょう」なんとも豪気なオーナーだ。

子供の頃に、将来は山小屋の親父になる、と決めて、そこからぶれずに今日まで、と聞くと隣地を買い取るくらいは当然の意思決定なのだろう。セブンサミツもバックカントリーもその一直線上にあったのだ。料理上手の奥様や、スキー名手のご子息、可愛らしい双子のお孫さん等に囲まれて、にこやかにしておられるが、大好きな環境の中で、好きなことに没頭して、心底から楽しんでおられるのだろう。

今回は、長野駅にマイクロでお迎えいただき、戸隠の蕎麦の名店、知る人ぞ知る蕨の畑、蕎麦の工場をご案内いただき、更に、翌日は斑尾山ハイキングのガイドと大サービスであった。この間の素晴らしいホスピタリティに今回 14 名の参加者は喜び、楽しませていただいた。オーストラリアからきて 40 泊もしていく外国人もいるとのことだ。人の楽しんでいる姿が、この方の喜びなのだろう。まさに本物のホスピタリティが溢れている居心地抜群のユアーズ・インであった。

後日、小笠原さんから、「皆様のお蔭で私も楽しい山行が出来ました。何かのご縁で皆様とお会いする事が出来ました。ありがとうございました」という嬉しいメッセージをいただいた。

(参加者：野口、吉田寛、萩原、宮崎則、小島、吉田由、清登、高橋)



6 月 行風山・雷電山(6 月 13 日)

渡辺徹也 記

平日山行に初めての参加です。

参加者のことを顧みながらの高橋さんの適切なリードで、歩むことができた平日山行でした。行風山・雷電山という、この山行で初めて知った山へ登れました。

また、ランチ購入のために寄った、ときがわ町のパンとハムの名店「こぶたのしっぽ」のサンドイッチも美味しかったです。

下山後には、昭和レトロな「玉川温泉」で汗を流して、優雅な気分で帰路につきました。

同行の皆様、ありがとうございました。

(参加者：渡邊(嘉)、山崎、宮崎、行方、吉田(湖)、足立原、立原、吉田(寛)、東、清登、渡辺、水野、野口、出口、高橋)



展望も、何もない行風山頂



雷電様を祭った由緒ある雷電山頂

7月 箆ノ登山・湯ノ丸山(7月11日～12日)

立原由子 記

7月11日、朝起きたら雨が降っていないで良かったと思ったのですが、出かけるときポツリポツリ降り出しました。梅雨真っただ中ですから無理もないことです。若葉駅に集合して高橋さん、林さんの車で出発しました。池の平駐車場から登山開始し、箆ノ登山で昼食、そのときは雨がやんでいましたのでラッキーでした。今日の泊りは「雪山賛歌」発祥の宿・鹿沢温泉紅葉館。レトロな温泉に入り、夕食までの時間に、部屋で楽しいひと時を過ごし、その後の夕食は豪華で美味でした。翌朝また温泉に入り、その時雨がやんでいて良かったと思ったらまた降り出しました。朝食も美味でした。9時に出発し湯の丸山登頂。無理はしないで烏帽子岳はパスし下山しました。湯ノ丸高原と、帰りのサービスエリアで久しぶりのソフトクリームの連チャン。どちらも美味しかったです。私は膝を痛めていて、大丈夫か心配だったのですが お陰様で楽しい山行でした。

(参加者：林信行、小島千代美、立原由子、米山英三、野口勝志、高橋努)



元気に湯ノ丸山山頂



なかなか豪華に懇親を深める

9 月 双子山と蓼科山(9 月 25 日～26 日)

小島千代美 記

北八ヶ岳大河原峠の広い駐車場に車 3 台で集合し、綺麗なトイレ、無人の売店でゆっくりと出発準備、天気も問題ない。緩やかな秋の七草の登山道を辿り、一時間程で広々とした双子山頂へ。籠ノ登山・浅間山・荒船山など 360 度の展望とすいすい飛び回る赤とんぼを眺めながら昼食を楽しむ。ここから少し下れば双子池ヒュッテ。北八の伝説的な山小屋だが、今は世代が変わり、若い夫婦がセンス溢れる経営をされており、部屋は大広間に個室を感じさせる一人テントでユニークだ。さっそく小屋前のベンチで最初の乾杯生ビールと和やかな会話を楽しむ。夕食も山盛りの天ぷらで豪華だ。

2 日目は、ハンモックキャンプが楽しめるテント場を抜けて、綺麗な苔むす亀甲池から將軍平へ北八らしさ満載の道を登る。なかなかハードな登りだ。最後は岩ゴロゴロの急登を詰めると蓼科山山頂 2530m、また岩ゴロゴロの急下りに息が上がる。15:30 に疲れ果てて大河原峠に帰還した。

天気に恵まれ、のんびりの双子山と緊張と体力不足を感じさせられた蓼科山、楽しく充実した 2 日間だった。

(参加者：小島千代美、立原由子、野口勝志、清登緑郎、渡辺徹也、足立原章、浅田稔、橋本久子、萩原みか、渡邊嘉也、高橋努)



双子山山頂



ユニークなテント泊

番外編 轟さんのお疲れ様会(9 月 11 日)

高橋 努 記

ご存じの通り、轟涼会員は、日本山岳会創立 120 周年記念事業である第 5 回グレート・ヒマラヤ・トラバース (GHT) に女性会員として参加され 70 余日の長きにわたる高所縦走トレッキングを歩き通し、元気に帰国されました。まさに、快挙です。

埼玉支部からこのような人材が生まれたことは誇りであります。そこで、平日山行倶楽部の有志で報告会兼慰労会を催しました。いつもの patina です。



轟さんのありのままの話は、もう想像を超えるものでしたが、本人はさほど苦労して快挙を成し遂げたという顔をしていません。丈夫な体を与えてくれた親に感謝などとプロ選手のようなコメントでした。感心して聞き入っていた参加者は、終わるころには「なんかネパールが近くなった気がする」との感想でした。

「南関東ブロック三支部合同懇親山行」開催される

事務局長 林 信行

*実施日：2024 年 10 月 20 日

*場所：日和田山・物見山（高麗）

今回は埼玉支部担当で「南関東ブロック三支部合同懇親山行・田部井淳子さんを偲ぶ命日登山」が開催されました。

従来は東京多摩支部、神奈川支部、埼玉支部の三支部での開催とされて来ましたが、今回は首都圏他多くの会員の皆様に参加を募りました。10 月 20 日は女性として世界で初めて世界最高峰のエベレスト、および七大陸最高峰への登頂に成功した田部井淳子さん(1939～2016)の命日です。かつて田部井さんが訓練と晩年リハビリに歩いていた日高市にある日和田山(305m)～物見山(375m)を歩きました。

参加者は埼玉支部 16 名、東京多摩支部 11 名、神奈川支部 1 名、千葉支部 3 名本部、首都圏から 2 名と 33 名の会員の皆様が参加されました。

当日は西武池袋線 9 時に高麗(コマ)駅に集合、各支部代表よりご挨拶いただき、9 時半に日和田山登山口に向けて出発。前日は強風がありヒヤヒヤしていましたが、好天に恵まれ里の空気も澄んで爽やかに感じられました。

登山口には田部井さんの「日和田山からエベレストまで」と刻まれた記念碑があります。やがて一の鳥居の先には女坂、男坂とあり田部井さんはリハビリで歩かれたとき体調が良い時は男坂、すぐれない時は女坂を歩かれたそうです。当日、私たちは基本コースを女坂の往復としました。

金刀比羅神社、日和田山と経由し高指山下の道からは特徴ある大岳山の姿がくっきりと見えていました。



正午、物見山山頂に着くと既に 30 人ほどの人が集まっていました。

合同懇親山行で登って来た私たちにご主人の政伸さんからお礼のご挨拶があり、ご子息の信也さんからは田部井さんの遺志を継いで頑張っておられる「東北の高校生の富士登山」についてお話がありました。

その後、額縁に飾られた田部井淳子さんを囲んで全員で記念撮影。最後は淳子さんが作詞された『山ってやっぱり楽しいよ!』（右枠）を歌いながら偉大だった田部井淳子さんを偲びました。

2025 年秋には田部井さんの実話をもとに吉永小百合さん主演で、映画「てっぺんの向こうにあなたがいる」が公開されるそうで楽しみです。

『山ってやっぱり楽しいよ!』
作詞/田部井淳子 作曲・歌/リビート山中

山にこうよ 山ってやっぱりたのしいよ
みんなに みんなに知らせてあげて
山ってやっぱりたのしいよ

山笑う 季節に私は山へゆく
桜の木の下で お弁当広げて花見する
私は ふるさと三春の桜案内人

山滴る 季節に私は山へゆく
緑がまぶしくて 力みなぎる季節だもの
稜線 たどってどこまでも歩いてゆきたいよ

山装う 季節に私は山へゆく
色とりどりの紅葉は 日本ならではのもののだもの
こんな紅葉は 世界のどこでも めったに見られないよ

山眠る 季節に私は山へゆく
みんな冬眠するけれど 冬こそ山に親しんで
陽だまりハイクに 雪遊び スノーシューハイク

山にこうよ 山ってやっぱりたのしいよ
計画たてるだけでたのしいし
登れば気分も晴れ晴れ!
山にこうよ 山ってやっぱりたのしいよ
みんなに みんなに知らせてあげて
山ってやっぱりたのしいよ
みんなに みんなに知らせてあげて
山ってやっぱりたのしいよ
山ってやっぱりたのしいよ



【自然保護委員会】「奥秩父冷温帯天然林観察山行」報告

副委員長 渡邊 泰子

2024 年 7 月 27 日（土）～28 日（日）、埼玉支部自然保護委員会は、奥秩父地方の冷温帯～亜高山帯地域に残る天然林を観察する活動を行いました。観察範囲は雁坂峠登山口（727m）から雁道場（1,292m）、そして亜高山帯針葉樹林への入口となる突出峠（1,624m）を過ぎ樺避難小屋（1,820m）周辺とその上部地域です。今回は、避難小屋宿泊という今までにない新しいスタイルの活動です。以下、その記録です。

【参加者】（50 音順）大室 昌久、東 洋子、山崎 保夫、龍 久仁人、渡邊 泰子

雁坂峠登山口から雁道場の間は、スギやカラマツの人工植栽地で単調な風景が広がっていました。ニホンジカ



フタリシズカの貧弱な群落

によるスギの皮剥ぎが散見されます。林床は下層植生

が衰退し、シカの不嗜好性植物であるフタリシズカやアセビが目立ちます。僅かに絶滅危惧種のジガバチソウやミヤマウズラ、キッコウハグマ、ナツノハワラビを確認することができました。

雁道場を過ぎ標高が上がるにつれ、落葉広葉樹二次林の領域となります。山腹斜面にはサワグルミ、イトマキイタヤ、リョウブ、イヌザクラが見られ、やがてウダイカンバやミズナラ、ブナなど冷温帯を代表する樹種が入り混じる樹林帯となりました。広葉樹はスギやヒノキなどの針葉樹と比べ、どの樹も大きく横に枝葉を広げ、伸びやかに生育しているように見えます。クリスマスツリーとしてよく使われる樹木、ウラジロモミは鹿の食害



川又の雁坂峠登山口をスタート

防止ガードが巻いてあることから、シカが好んで採食することがわかりました。

突出峠を過ぎると、コメツガやシラビソなどの針葉樹からなる亜高山帯の林に変わりました。付近は風倒木が目立ち、林冠が空いて光が差し込み林床が明るいギャップとなっています。多くの樹木は、様々な方法で種子を散布します。陽光が降り注ぎ暖かなこの林床において、リスやネズミにより貯食されたミズナラの種子や、埋土種子として土壌の中でチャンスを待っていたウダイカンバの種子などの幼樹たちが生育しているはずですが、この一帯はこれらの芽生えが全く確認できませんでした。この付近は20年程前、林床が背丈1.2m程のスズタケで一面覆われていたといいます。今は、シカの採食害の影響により背丈10cm程にしか成長することができない状態が続いています。



幼樹や下層植生のないギャップ地



天然生カラマツの巨木

標高1700mを越えた林内は、老齢樹が多く長年人の手が入っていない遷移後期の極相林の様相を呈していました。尾根上には天然生カラマツが多く生育しています。カラマツは秋に葉を鮮やかな黄金色に染め、針葉樹の中で唯一落葉します。戦後大規模造林の際、多く植林されたのですが、そのほとんどが木材として伐採することが目的でした。残存している天然のカラマツは貴重だと言われます。

雁坂峠登山口からスタートした際は、少し歩くだけで汗が噴き出してくるような暑さでしたが、この付近は、涼気が漂い土や樹や葉が混ざったような深く濃い独特な香りで満ちていました。

観察のゴール地点、標高1820mにある樺避難小屋の周辺は、60年生程のダケカンバの天然再生林でした。

その他、ミネザクラ、ミネカエデも生息していました。ミネザクラは別名タカネザクラ（高嶺桜）とも呼ばれ、日本のサクラの中で最も標高の高い所に咲きます。ダケカンバの幹に張り付いたトゲナシカラクサゴケや、澄んだ空気に含まれる水蒸気を栄養として成長していくヨコワサルオガセなどの地衣類も確認できました。森に生息する植生には不思議な生態を持つ種が多く、とても興味深いです。

樺避難小屋のすぐそばでは、老齢のウラジロモミの樹上でツルアジサイが白い装飾花をたくさんつけていました。夏空の下で生き生きと煌めくその清々しい様子は、しばし暑さを忘れ涼やかな気持ちにさせてくれます。

今回の観察山行にて、冷温帯～亜高山帯地域でしか見ることができない様々な植生の生態について、多くの学びを得ることができました。避難小



樺避難小屋にて



シラビソの倒木更新

屋での宿泊、真夜中の森に何度も響いたシカの鳴き声、終始和やかな雰囲気の中でメンバーと過ごせたこと、全て心に残る経験となりました。また観察の過程で、下層植生の衰退、根の露出、土壌流亡の現状を目の当たりにし、森の多面的機能、その中でも我々登山者にとっても関わりのある、土砂流失防止機能、水源涵養機能の低下に対する問題意識を持つ契機となりました。樹木や土壌に多くの炭素を固定する森林がこの先、生物多様性を失うことなくその機能を発揮し豊かであり続けてほしいと願っています。

今後も山を登り、観察をとおして「植生や森の生態を知る」学びを続け、森づくり活動が続けていきたいと思います。このことが森林の生態系、山岳環境の保全に貢献できる第一歩だと思うからです。

晩秋にもう一度この地を訪れてみたいです。きっと多くの樹木たちが葉を紅葉色や黄朽葉色に染め山を美しく彩っていることでしょう。

【自然保護委員会】ニホンジカ食害の実態調査について（その 2）

— 炉辺談話の聴き書き —

自然保護委員 鴨志田隼司

— 山中 豊彦氏聴き取り調査—ニホンジカ・クマの被害について—

◆山中 豊彦氏と「白井差新道」の成り立ち

日本山岳会埼玉支部自然保護委員会では第 5 次ニホンジカ食害調査に先立ち、両神山山麓に住む、当時小鹿野町町議会議員だった山中豊彦氏から野生鳥獣による食害・被害実態の話をお聴きした。この聴き取り調査は、2016 年 9 月に白井差のご自宅をお尋ねした際の速記録です。

山中氏のご先祖は、鎌倉時代の歴史書「吾妻鏡」にも出てくる家系で、茨城県猿島から移住したと言われている。両神山の一部を所有する山林地主でもあります。山中氏の先代は、古い山岳ガイドブックを開くと、両神山山麓の小鹿野町白井差地区に山小屋を営んでいたようです。また、氏自身は広く山岳遭難の救助にあたっている山岳救助隊協力員です。

山中氏は自宅前から山頂に至る登山道をつくり「白井差新道」と名付けて、日本で最初の有料予約制（環境整備料）登山道を整備しています。両神山への登山道は薄川、小森川、尾ノ内沢と八丁峠からの七コースありますが、いずれのコースも神仏習合時代の山岳修験寺院奥社を祀る修験道における行場のため、岩場や鎖場を登攀し急斜面をヘツル難コースです¹⁾。昭文社発行「山と高原地図」で中級あるいは上級向けコースとされています。

両神山城での近年における山岳遭難は埼玉県下での遭難例の 2 割に達し、山中氏は協力員として出動しているとのこと。「白井差新道」の登山道は、白井差の山中宅前から小森川沿いに梵天尾根から両神山剣ヶ峰に至る、岩場も鎖場もない、道沿いに溪畔林特有のトチ、ブナ、シオジ、カツラ、サワグルミなどが観察できる、歩きやすい中級コースとして良く整備されています。このコースにおける重大な山岳遭難の発生も少ないようです。

登山道は一体、誰が維持・管理するのか？を考えると、富山県側の北アルプスも今年の 8 月からいよいよ協力金制度を設けることになったと報道されているのが参考になります。

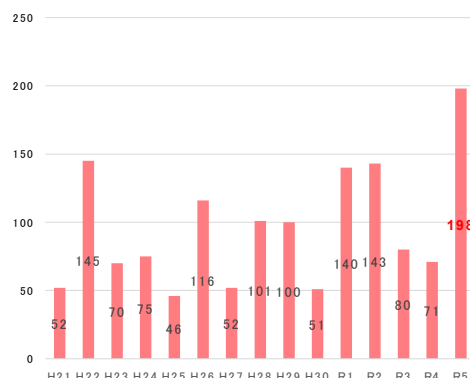
◆最近のクマ類による人身被害のコト

国立研究開発法人 森林研究・整備機構の報告「ツキノワグマの出没メカニズムの解明」²⁾からまとめて見ますと、研究所の調査は「クマ出没の生物学と出没予測」と題して報告されています。

クマの出没は、通常の年だと、お盆過ぎに多くなり、生息地である森林に様々な樹木の果実が実りだす秋になると収まります。一方、秋になっても出没が収まらず、

例年の数倍のクマが出没し、被害防止のために捕獲される年があります。いわゆる大量出没の年で、最近では、2004 年に北陸、近畿、中国地方にかけて、2006 年、2010 年に東北から中部地方の日本海側、北関東、近畿、中国地方にかけて発生しました。これらの年には、人身被害が例年の 2～3 倍発生し、被害防止のために 3～4 倍のクマが捕獲されています。

令和 5 年度のクマ類による人的被害はこれまでと比較にならない程の全国的に最多の件数です。山岳地帯において登山者が襲われたというクマ被害は必ずしも急増しているわけではないが、最近、被害件数が増加する傾向にあります。近畿地方の山岳地帯で子連れのカモシカがツキノワグマに襲われる映像が公開されました。子供が草食性と言われるツキノワグマによる狩りの被害に遭ったが、哺乳動物も襲われる可能性があるようです。



クマ類による人身被害件数³⁾

●大量出没の原因：大量出没が起きる年は地域によって異なるが、出没数（有害捕獲数）の変動は、複数の府県レベルにまたがる広い範囲で調和的です。このことは大量出没の原因が、広範囲に作用する環境因子であることを示唆しています。特に、東北地方の多くの地域で、ツキノワグマの食料であるブナの結実変動がクマの出没と強い相関を持つことが明らかにされています³⁾。また、ツキノワグマの大量出没は、クマが越冬準備のため大量の食物を必要とする晩夏から秋にかけて起きます。このような状況証拠から、越冬準備期の秋に、主食となるブナやミズナラなど樹木の果実が不作になることが大量出没の原因だとされています。

●大量出没の過程（クマの生理と行動の変化）：しかし、食料不足の秋に、ツキノワグマの栄養状

態や行動がどのように変化して、人里に出没するのかが不明でした。そこで、秋における樹木の結実不良が大量出没の原因であるという仮説を検証し、対策の方針を明確にするため、食物変動に伴うクマの行動、栄養状態の変化を調査しました。野生のツキノワグマの行動調査とともに、行動圏内のナラ類の果実（ドングリ）など主食植物の結実状況を調査しました。その結果、秋のクマは、常にナラ類が実っている地域を集中的に利用する実態が得られました。

コナラとコナラ類の中でもミズナラの豊作年には、季節の進行とともに行動圏を高標高域へ広げること、逆に、不作年には低標高域へと大きく広げることが明らかになりました³⁾。ミズナラはク

令和5 年の東北地方 ブナの開花・結実の状況		
都道府県	開花	結実
青森県	大凶作	大凶作
岩手県	大凶作	大凶作
宮城県	大凶作	大凶作
秋田県	大凶作	大凶作
山形県	大凶作	大凶作

東北林管理局のブナの結実調査³⁾

令和5 年の福島県(全体) ブナ類の開花・結実の状況		
種類	開花	結実
ブナ	大凶作	凶作
ミズナラ	並作	並作
コナラ	並作	並作

マの行動圏の中でも高標高域に分布します。また、標高の高いところほど果実の成熟時期の個体差が大きく、結果的に晩秋になっても果実が多く残っていました。そのため、豊作年には、クマはそれを求めて標高を上げた可能性があります。一方、不作年には標高を上げて果実が無いので、低標高で実っているクリやコナラを求めて活動標高を下げた可能性があります。このような食物の分布に応じたクマの行動の変化が人里への出没に結びついていると考えられています。

また、これに加えて、人里に降りた子連れツキノワグマは耕作放棄地や村落の周辺に遺棄されたカキ・クリや残飯、家畜肥料、農作物などのクマの潜在的食物を摂取することで、栄養価の高い食料を得た子グマは、アーバンベアとなり、人里の食物に依存するようになります。秋の食物の結実状況とは無関係に人里に出没している個体もいます。このような個体が増加すると出没や人身被害が常に発生する危険が高まります。食欲が増進しているにもかかわらず山の中に食物が無いので、栄養状態とは無関係に、人里へ出没することが考えられます。

また、出没地域の景観の特徴を分析した結果、河川沿いや人里周辺の茂みや用水路などがクマの移動経路や潜み場所になるようです。これらの結果から人里および周辺の環境整備が出没防止に重要であると考えられます。

◆両神山周辺におけるシカ生態・被害の話し

埼玉県小鹿野町白井差にある山中氏自宅の炉辺で自然保護委員会 11 名の参加でお話を聞かせて頂いた。聴き書きは特別にテーマを設けずに、シカ被害を中心に山中氏の思うままに自由に話していただいた内容を書きとめた。談話は道筋が整っていないので適宜見出しをつけて整理しました。

★シカ・カモシカの生態系について

近世まで千五～千メートル級の山地帯は中山間地域の農用としての役割が大きかった。山地帯はゾーニングされ奥山（留山）・秣山（薪山）・里山（耕作地）と用途別に分類されて人々に利用されていた。それにより野生獣は環境に適合した地域に、奥山ではクマ・シカ、秣山にはノウサギ、ヤマドリなどが棲家とし、山地帯を棲み分けていたと思われます。山にすむ野生獣を管理するには棲み分けが重要な課題であると言えます。



白井差の山中家での炉辺談話の様子

14～15 年前の例だが、シカは毎年、メス一頭が一頭の子鹿を産む。シカ保護管理の法令から、12 年前にはメスの捕獲が禁じられていた。その結果、10 年前位からシカの生息数が爆発的に増え、小森川周辺で年間 100 頭位狩猟しているが一向に減らない状態が続いた。シカ被害が増えたのはメスシカを残したのがまずかった。やはり基本的にはメスの駆除が肝要である。メスシカは 2 才から妊娠可能で毎年一頭を産む。カモシカは 2 年に一回、オスカメスを一頭出産する。クマも 2 年に一回、2 頭（オスとメス）を出産する。一頭しか育たないことがある。したがって、クマは爆発的には増えない。

★シカ・カモシカの行動と食性について

両神山周辺におけるカモシカは最近頂上付近から下界へ下山し始めた。以前のシカは冬場に雪があるので、高山へは行かなかったが、降雪が少なくなり、シカがカモシカの食料を食べ尽くしたからである。最近では林道や山道の端でシカ狩猟をしている。両神山では学習した 3 グループのシカが山の上に残った。このグループは 20～30 頭の群れをなしている。

最近のニホンジカは冬場、ミヤコザサ・クマザサ・スズタケを餌とし始めた。十分に生育できないクマザサとスズタケは秩父には無くなった（食べ尽くされた）。ミヤコザサは地下に新芽をつくり春に発芽するため、60～70cm の背丈だが、毎年背丈が縮んできた。背丈は低くなったが今も残っている。冬はミヤコザサ・ナツツバキ・リョウブ・キハダ・ウラジロモミ（400～450 年齢）が食料となる。多くの植物が枯れる方向に向かって絶滅の危機にある。ニホンジカはモミの樹を、味が悪いのか食べないが、ツキノワグマはモミ・ツガ・ヒノキの樹液を舐めて冬眠に入る。しかし、ウラジロモミは皮を食べられ立ち枯れている。シカがナツツバキの表皮を摂取するために⁴⁾、皮がはがされるが、皮膜が薄いナツツバキはすぐに復活する木である。冬のナツツバキは、古い樹皮が部分的に剥がれ落ち、春になると皮膜を形成してこれを毎年繰り返すので、両神山では 10 年位前から被害が目立ってきた。ニホンジカは草木が枯れ始める晩秋から深雪が融け始める早春にかけて、山林で数種類の樹木の樹皮を食べる。中には、幹の全周を食べられて、立ち枯れる木もある。

雪の多い年、丈が 30～40cm と低くなるミヤコザサは雪の下に隠れるので、痩せて餓死するシカが増える。ニホンジカは栄養失調になると妊娠しにくい、そのわりにはその頭数が減らないようだ。

ニホンジカは 4 月中頃、ニリンソウを食べる。花芽を食べるので、種子ができないため、減っている。5 月連休時に緑になると、春の芽吹きを追って、シカは頂上へ向かうようになる。5 月中頃にランの仲間が顔をだすと食べるようになる。イチョウラン・ハイサイラン？・カモメラン・ツバメオモトなどの希少植物を片端から食べている。

夏の終わり頃、キンレイカを学術サンプルに一本を欲しいとの申し出があった。環境省の管理官はサンプルを出すかどうかを議論したが、両神山のニホンジカは平気でたくさん食べているので情報が現場とかけ離れている。話しのレベルが余りにも違い過ぎる。山頂で何が起きているかの理解をしていない。一本の学術サンプルを出すかどうかの問題ではないだろう。亜高山帯の貴重な高山植物が絶滅の危機に瀕している。

両神山ではシカはトリカブトの仲間、ミヤマバイケイソウを食べている。これまで、ヒトリシズカは食べるが、フタリシズカは食べないで残す。トリカブト・ミヤマバイケイソウも春先には新芽の先だけ食べる。

8 月初旬からニホンジカの多くはエサを食べ尽くして山を降りる。道路の端や畑の端に残った草を食べるので、駆除するには道路・畑の周辺を駆除対象場所にすればよい。シカは減らさないとダメな時代になった。埼玉県では年間 2000 頭を駆除しているが 3000 頭まで駆除する必要がある。

県は、両神山七滝沢の滝の上流にある県公社造林 16.8ha を伐採したが、そこが山火事を起こし、約 12ha が焼けた。皆伐跡にタラの芽・クマイチゴ等が生え、4～5 年の間タラの芽（15 年位の木寿命）が繁茂した。しかし、シカが樹皮を剥いて一本も無くなった。材木は 860 万円収入だったのに、スギの木は千円／本程度にしかならなかった。知事にシカの被害について手紙を書いた所、3 千万円でシカ除けのフェンスを設けた。県はそのような山を造っている。そのフェンスが

壊れてしまい、3千万円の空き地でシカが遊んでいる。そこで、今度はもう一度フェンスを造ることになり、今度はもっと金額が増えている。

県造林（公社造林）は50年の借地契約で売買金を、地主には4分×860万円＝344万円払うが、5000万円で作るとなれば、これでは赤字である。

スギの木を伐採すると10年で伐根が腐ってダメになる。シカが根っ子を蹴っ飛ばして、雨で斜面の土が崩れて流れる。こんなに赤字なら伐採しないで地主にただで与えるか、売れない木は立っただけの方が賢明である。

ニホンジカ被害の要因はメスを捕獲しなかったからである。シカはハーレムをつくるのでオスが一頭でも群れは増える。

両神地区では3年前多雪で、雪崩が発生し、シカが30頭近く巻き込まれて死んだ。道路のフェンスに引っかかりやはり死ぬシカもいる。雪の上にエサが出ている必要があるが、雪が少ないため山頂まで食べに行ってしまう。地球温暖化で雪が少なくなったため、シカが山の上に行けるようになったのだろう。

一方、カモシカはテリトリー内で棲息するので広域移動をしない。カモシカの食性は自己の縄張り内で餌を一口たべてまた歩き一口食べるスタイルをとるが、シカは餌を全部食べてしまう。

カモシカは縄張りの中でタメ糞をするが、ニホンジカは方々に移動してエサを食べるので糞は散らばる傾向がある。カモシカがタメ糞をするのは、昔オオカミや山犬から自分の居場所をわからなくするためである。

里に下りた周辺のカモシカが誤ってシカわなに掛かってしまうが、シカ猟師が足跡の区別ができないからだ。

2年に一回一頭しか子を産まないカモシカは急に増えない、一頭のカモシカは単独で行動する。子を一年後には自分の縄張りから追い出してしまう。カモシカは頂上から降りたとしてもエサがないので、最近畑の周辺で生活しているようだ。

ニホンジカの大型の角は樹木の樹皮を傷つけて、メスが食べやすいように準備をしている。成獣は早春に角が一本ずつ落ち、5月に角袋が形成され6～8月頃に急速に枝を増やしてのびる。オス二歳のシカの角は1本或いは二叉にのびる。九月頃には大きくなって、先を削ってメスを得るときの準備を始める。山奥でメスを求めるツノカラムー相撲取りの現象でカチカチという音がする。この戦いに勝つとメスを引き連れて移動する。勝ち残れなかったオス同士で群れをつくるように行動するし、メスもメス同士で群れをつくり行動する。5～6月にメスが群れで行動するが、子供を連れている。ピーピーと鋭い鳴き声で、群れが散ったときに呼び寄せる。

子供がいるときにオスは群れを離れる。



自宅前での自然保護委員会一行

★クマの行動と被害の出来事

1990年代以降の「鳥獣保護法の改正」の施行により狩猟者が東京都雲取山からシカ撃ちを始めた、シカは東京都と埼玉県の間を越えて埼玉県側へ逃げ込み、秩父地方のシカによる農林業

の被害が増加した。山に括り罟を仕掛けておいたら、シカが掛かり、ばたばた暴れるシカをクマが襲って食べ始めたのもこの頃である。秩父栃本でヤギを繋いで放し飼いにしていたら、クマに食べられ、骨と皮だけになっていた。秩父ループ橋の近くに住む猟師が猟犬を自宅近くに繋いでおいたところ、やけに犬が吠えるので「うるせい」と怒鳴った所静かになった。翌朝、首輪はあったが、石垣に近い所で、骨と皮だけになっていた。猟師は悪いことをしたと悔やんでいた。横瀬町でもクマが犬を喰い、射殺される出来事があった。

山へ仏さまを探しに行ったとき、シカが同族の肉を喰ったということが云われているが、本当かどうか分からない？イノシシ・キツネ・タヌキ・テン、昼にはカラス、時には夜、クマが死体を食べる。

これまで、トチの実を食べるシカはいなかったが、イノシシはトチの実を食べていた。朝行っても拾えない時に、撃ち殺したイノシシの腹を割いてみると喰っていた。今はシカがトチの実を食べてしまう。

イノシシとカモシカについてはウイルス・ヒゼンダニがついて病気になるが、シカには付いていない。ヒゼンダニが何故付かないのか？これはシカがキハダを食べているからだと言われている。キハダは黄檗であり、サンゼンソウともいい、ダラニスケ・ヒャクソウと言う胃腸薬となるベルベリンを含有する。

岐阜県でシカロース《背筋肉》を生で摂取して E 型肝炎にかかった食中毒が報告されたが、奥秩父の鹿肉を検査しても放射能は検出されていない。

ニホンジカの駆除は近所で 100 頭撃ったが、まだ 100 頭残っていて、雨降り、雪降り直前に道路に出没する。年 1000 頭を駆除して、犬のエサ、食肉にするが、定期的に集荷できないので、産業になりづらい。冷凍庫＋アルバイトが必要になる。天敵としてのオオカミ（シベリアオオカミ）を導入しても、オオカミが狩るのは、2～3 頭／月程度であり、とても現実的ではない。秩父では明治 36 年ころまでオオカミがいたが、オオカミがヒトを喰ったとか云う話しは秩父ではない。

シカにとって、ササは冬の食べ物、夏はニリンソウ、畑の端と道路の脇の草を食べに降りている。

クマは 12 月の 20 日ころに巣ごもりする。メスは 1 月～12 月に出産する、そのまま巣ごもりして、4 月、5 月に穴から出る。自宅の裏側で、2～3 年前に凄惨な悲鳴が聞こえた。ヤブの上に大きなケヤ木があり、その前の土の上を何かを引きずった跡があり、シカが腹を喰われていた。クマがシカを襲った。キバ跡がシカの身体に残されていた。

以上切れ切れに話していただいたので、そのままの聴き書きとしました。

(文責 日本山岳会 埼玉支部 元自然保護委員会委員)

なお掲載写真の一部は元会員 朝日 守氏から寄贈されました。紙上にて御礼申し上げる次第です。

参考文献

- 1) 椿 真智子・城戸 貴子 1991『秩父両神村における修験の展開と変質』歴史地理学調査報告 第 5 号
- 2) 独立行政法人 森林総合研究所 2023「ツキノワグマ大量出没の原因を探り、出没を予測する」森林総研
- 3) 環境省 2024「令和 6 年度第 1 回クマ被害対策等に関する関係省庁連絡会議 議事次第」環境省
- 4) 鴨志田 隼司 2024「ニホンジカ食害の実態調査について(その 1)-秩父 父不見(テテミズ)山周辺-」日本山岳会埼玉支部報(彩の山) 第 41 号

【社会貢献委員会】 清掃登山「関八州見晴台」報告**委員長 若林優子**

◆実施日：令和 6 年 10 月 19 日

◆目的：対象となる登山道のゴミ拾い

◆実施場所：関八州見晴台(飯能市) 天気：晴れ～曇り

◆参加：12 名(清登緑郎、小島千代美、奥田通孝、轟涼、林信行、若林、立原由子、市川順子、松尾渡、浅田稔、吉羽悠介、芦沢絵美子 ※会員番号順)

◆コース：西吾野駅 9：30～シバハラ坂～石地藏 11：00→高山不動尊 11：45→関八州見晴台入口 12：10→関八州見晴台 12：45～13：10→関八州見晴台入口 13：40→八徳分岐 13：50→八徳集落登山口 14：30

◆活動成果：

- ・回収内容：ペットボトル、空き缶及びプルタブ、ビニール、瀬戸物の破片、瓶及び破片、発泡スチロール、お菓子の空袋、ポリカ波板等
- ・回収量：20 号 6 袋、30 号 6 袋 満杯

◆活動概要：

当初想定していたよりもゴミの量が非常に多く、最近廃棄されたものというよりも、朽ち具合からかなり昔のものと思われる物が多かった。

登山中の落下やポイ捨てよりも、意図的な投棄、廃業した小屋からの流出が原因と思われ、中には錆びたバケツや一斗缶など大きなゴミや、登山道脇の崖に大量のゴミが投棄されている場所も見つかった(回収できず)。集落が近く、簡単に入れる里山ならではのゴミであろうかと思う。想定以上のゴミの量であったため、次回はゴミ袋・回収方法も工夫したい。



【所感】

10 月下旬にも関わらず、夏のような気温の暑い山行でしたが、多くの方が参加してくださいました。

前回清掃登山を実施した棒の折山ではそれ程ごみが落ちていなかったこともあり、今回もあまりごみが落ちていないだろうと想定していた清掃登山でしたが、いざ始めてみると、想定以上の多くのごみの投棄がありました。登山道の脇にペットボトルや空き缶、瓶などが捨てられ、パッケージのレトロ感、朽ち具合からかなり昔に不法投棄されたように見受けられました。

皆さんの巧みなトンゴさばき、また先日入会された吉羽さんの大活躍もあり、あっという間に全員のごみ袋がいっぱいになり、山もきれいになりました。

すれ違う登山者の方たちにお礼のお言葉などいただき、環境美化の啓発、また支部の活動のアピールにもなったかと存じます。

和気あいあいと楽しく、暑さとは違うよい汗をかいた充実感のあるよい清掃登山となりました。ご協力いただいた皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。



創立 120 周年記念事業 グレートヒマラヤトラバース/ステージVに参加して

副支部長 轟 涼



700 kmを踏破し、カトマンズに到着して
にっこり。4人の隊員とガイド(右端)

ネパールへは行ったことのない私がグレートヒマラヤトラバースに参加できることになったのは、2023 年度の晩餐会記念山行(天覧山・多峯主山)で千葉支部の松田宏也さんに「今年マッターホルンに行ったのですが、ネパールも良いそうですね?」とお話ししたら「じゃあ、僕が重廣隊長に紹介してあげるよ」と言ってくださったのが始まりでした。

そこからトントンとグレートヒマラヤトラバース PJ 会議への参加を許され、山歴・履歴書・パスポート No.をお知らせし(書類審査?)、4 回の PJ 会議を経て 4 月 15 日の出発となりました。それまではいつ「参加は無理だね。」と言われてしまうかハラハラでしたが、なんとかこのチャンスをつかみたいと必死に準備に取り組みしました。チャン

スの神様は前髪しかないといひますしね。

しかし会議中にレクチャーしてもらっていても、まずネパールの地図上の地名が読めずわかりません。本や資料を読んでもなかなか頭に入りません。戻ってから読み返した方が良くわかりました。

ほとんどがテント泊で、高度 5000m 越えが 7 か所もある自分にとって未知の高度で不安がいっぱいでした。高度順応のための冬富士登山や、三浦ドルフィンでの高所順応能力測定、5000m 低酸素室での訓練、高所登山の報告会や山岳医療の講習会にも参加しました。

この旅のテーマは、河口慧海（1900 年）・西北ネパール学術探検隊（1958 年）・北大西ネパール遠征 隊（1963 年）の足跡を辿り、カイラスを展望します。たどるエリアは、北西ネパールのアップドルポ〜フムラの 700 km です。

河口慧海師のこともぼんやりとしか理解していませんでしたが、ネパールを実際に歩いてみて、たった一人で、重い荷を背負って歩き、馬やヤクや羊にも乗ったというその道の過酷さや、対岸に刻まれた慧海氏の辿った道を見た時に、修行僧というよりアルパインクライマーだ！と思ったりしました。

また、日本山岳会の先人たちの足跡の大きさと、歴史の深さも感じることができました。私は第五回目の 700 km ですが、グレートヒマラヤトラバースは全 1700 km で、日本山岳会だから出来る企画と思われます。

さて、清く正しい報告は「山」の 8 月号（No.951）に重廣隊長の、9 月号（No.952）に吉井隊員の報告をお読みいただくとして、私の感じたグレートヒマラヤトラバースを書きます。

最初はお腹を壊すのではと心配しましたが、ネパールのダルバートは大変美味しくいただきました。ダルは豆のスープ、バートは米飯です。基本はスープと米飯にカレー味の炒めた野菜と生野菜と漬物、辛いペーストなど、いわゆるカレーが付くのはチキンかマトンでご馳走です。日本で食べるインドカレーともちょっと違いました。

キャラバン付のキッチンポーターは、日本食も作ってくれました。白米ご飯とみそ汁は毎日、時には海苔巻きやコロッケも出ました。海苔巻きの付け合わせがフライドポテトだったり、ピザにご飯とみそ汁が出た時には、ピザはおかず？とちょっと笑ってしまいましたが。でもどの料理もとても丁寧に下処理がされていて美味しかったです。長いキャラバンで、補給を含め食料計画はとても大変だと思います。朝食のチャパティ（パン）が小さくなった時は、そろそろ村がないと大変そうだわと思いました。お腹を壊したのは 5 月 30 日の旅も中盤になり疲れもたまっていたのか、ヤクのヨーグルトを食べた晩でした。吐くは下すはのダブルで、食べることもできません。水分だけで、1000m 登り 1000m 下る峠越えのルートは風も強く一番つらかったかも？4000m の峠で幻のブルーポピー発見と喜んだのに、あとでガイドに違うといわれがっかり、でもそっくりで亜種らしいです。



ポーターたちはみな優しく、生活力の高さに驚きました。誰もがヤギを捌けるらしいし、食器は少ない水でとてもきれいに洗ってくれます。日本人とそれほど体格差はなくむしろ小柄なのに重い荷物（30~40kg）を背負って、スニーカーで雪の峠を越えとても早く歩けます。霊峰カイラスを望む峠では、長く拝礼をしていて信仰の厚さを感じさせられました。馬方もポーターも名前にラマ（僧）を持っている人もいました。

大きく厳しい自然が身近で圧倒されながら、毎日毎日、明日も歩き続けられるように考えていました。信仰の厚さを感じる旅でもありました。



霊峰カイラスを望むために行った、ロルン・ラ峠
4933m（チベット国境近く）で見たナムナニ峰
7694m（1985・5・26 日中合同で初登頂）と轟

4 月 15 日～6 月 26 日までの、テントに 49 泊、ロッジに 10 泊、カトマンズでの準備と後片付けでホテルに 16 泊。

初めてのネパールとしては、いきなりハードで、今思うと、良く参加させてもらおうと思ったと自分の大胆さにも驚きです。

丈夫な体と、山歴は長くないですが、岩・バリエーション・沢・雪山・アイスクライミングと広くいろいろやってきたことと、能天気な性格が無事踏破できた要因かもしれません。

また、ネパールに行きたいです。

ご支援くださった皆様にも感謝しています。ありがとうございました。 轟 涼

2024 年度 第 6 期「埼玉やま塾」終了報告

埼玉やま塾事務局 稲越洋一

「埼玉やま塾」は過去の 5 期までで、卒業生から 32 名が入会(会員・準会員)されています。

2024 年度の運営は、2 月にキックオフを行い、スタッフの人選や運営細部のマニュアルを作成。マニュアル作成に当たっては、5 期事務局担当の長谷部さんには多大なご尽力を頂きました。

スタッフの皆さんは、個人として仕事・プライベート等をお持ちの中、ボランティア参加として 14 名の方にご協力を頂きました。改めて厚くお礼を申し上げます。

第 4 期頃から、スタッフは過去の塾卒業生を中心に人選できる規模となり、今年度は今後の「埼玉やま塾」継続を見据え、過去の塾卒業生を中心としたスタッフ組織とする事を意識しています。さらに、講師の平川さんのご指導の下、開講前の 4 月にはスタッフ研修(合宿：1 泊 2 日)を行い、各自のスキルアップに努めました。

※スタッフ研修：行動中の安全管理、事故発生時の応急対応シミュレーション(ロールプレイ)、フィックスロープ/ツェルト等実技

全 4 回の机上講義は、前期同様、浦和コミュニティセンターを活用、実技は、「#1 大高取山」、「#2 武甲山」、「#3 伊豆ヶ岳」、「#4 雲取山(1 泊 2 日)」とし、各スタッフでそれぞれの担当を役割割り分担して実施いたしました。

例年、実技の#1、#2 は梅雨の時期に掛かるため、雨模様が多かったのですが(但し、雨中の登山体験が出来る)、今期は幸か不幸か、#4 雲取山の 1 日目までは好天に恵まれ、塾生の雨中登山体験は、雲取山の 2 日目(下山)のみとなりましたが、記憶に残る登山となったことでしょう。

初回の机上講習では、初顔合わせのため塾生の方々も緊張ぎみでしたが、実技講習が始まると、登山中の会話も弾み、塾生同士、スタッフの面々とも直ぐに打ち解けていった様です。

第 6 期の塾生には 3 名の新入会員と共に、終了時点で更に 3 名の入会申し込みが入っています。

◆塾生へのアンケート結果(回答 11 件)

評価としては、「期待どおり」「ほぼ期待どおり」とのご意見を頂きました。

又、「日本山岳会埼玉支部への関心」については、大いに有り：6 名、興味有り：5 名でした。

1	募集時期・掲載要項について	11	良い		ほぼ良い		やや良くない		良くない
2	開催時期・回数について	10	良い	1	ほぼ良い		やや良くない		良くない
3	机上講習について	10	期待通り	1	ほぼ期待通り		やや期待外れ		期待外れ
4	土曜日開催の机上講習時間について	2	10～12時	2	13～15時	1	15～17時	6	18～20時
5	登山実技について	9	期待通り	2	ほぼ期待通り		やや期待外れ		期待外れ
6	講師兼コーチについて	10	期待通り	1	ほぼ期待通り		やや期待外れ		期待外れ
7	サポート体制について	10	期待通り	1	ほぼ期待通り		やや期待外れ		期待外れ
8	参加費について	6	安価である	5	適当である		やや高い		高い
9	埼玉やま塾全般について	10	期待通り	1	ほぼ期待通り		やや期待外れ		期待外れ

自由記載コメント：

- ・仕事終わりに行けるので、19 時開始は助かりました。講義も毎回楽しく参加させて頂きました。本当にありがとうございました。
- ・この度は、たくさんのご指導を本当にありがとうございました。
- ・歩き方講習や岩場、鎖場講習も実施して頂きたいです。
- ・毎回楽しみに参加させて頂きました。ありがとうございました。
- ・大変勉強になりました。役員さんの気配りに感謝します。お世話になりました。学習内容をひとつひとつ身につけ、安全登山を肝に銘じ、これからも山を楽しみたいと思います。
- ・登山アプリの使い方講習を行ってほしい。
- ・期待以上でした。

2025 年度の「埼玉やま塾」も、6 期卒業生を加え、引き続き、会員各位のスタッフ参加へのご協力をお願い致します。



《机上講習》



《#1 実技 登り歩行の講義》



《#1 実技 大高取山山頂》



《#2 実技 ストックの使い方講義》



《#2 実技 武甲山山頂》



《#3 実技 伊豆ヶ岳山頂》



《#4 実技 山小屋での講義》



《#4 実技 雲取山山頂(降雨)》



「彩の山研究会」便り

会員 小原茂延

「彩の山研究会」便り

「彩の山研究会は埼玉支部の有志が発信する郷土の山から日本の山、世界の山に関する山岳情報・山岳文化を広くお伝えするもので、会発足以来の傳承を目途としています。

■ K2 西壁滑落事故

平出和也・中島健郎



本年 7 月 27 日に K2 西壁登攀をめざしていた平出和也氏と中島健郎氏が滑落のニュースが飛び込んだ。実際にこの事故を知ったのは発生 2 日後の 7 月 29 日で PC のニュースであった。所属先の石井スポーツによると、「2 人が 7500m 付近から滑落した」と報告があった。現地メディアによると、パキスタン軍のヘリコプターが救出を試みたが、標高が高い急斜面で接近が難しく、地上からの救助も上部崩落難しいとの報告であるとの事であったが、石井スポーツは 30 日の公式サイト更新で、上部岩壁の崩落等による二次遭難の危険、2 人に動きが全く無い事などから、家族の同意のもとで救助活動の終了を決めたと発表した。

平出氏は信州富士見の出身であり、ピオレドール賞を 3 度受賞、その対象となった登攀の映像を見ていた。また、神奈川支部結成時に写真に写っていた記憶もある。中島健郎氏は、平出氏とのシスパーレ、ラカポシでピオレドール賞を受けており、最近のヒマラヤ・カラコルム地域の山岳映像には目を瞠るものがあった。両氏ともこれからの活動が世界を牽引するクライマーであっただけに、この滑落事故、救助断念は無念である。

「山と溪谷」9 月号の『ヤマケイジャーナル』には早速、速報が載り、二人が挑んだ K2 西壁について、西稜の左に展開する標高差 2700m の大岩壁で、その全貌はサヴォイア氷河に分け入らなければ姿を現さないといい、クルティカも 1987～94 の間に 4 度挑戦するも成らず、最高地点は 6800m だったという。その後、2007 年にロシア隊が包囲法で初登、大量 11 人が登頂したが、長期間得を掛けて固定ロープを設置した方式で、平出・中島ペアは、アルパインスタイルを信条としてルートを検討していたという。

「山と溪谷」同号には、『BALTORO 岩と氷の巡礼路』が掲載され、故宮森常雄氏によるバルトロ氷河の地図も付いていて Savoia GL の位置など理解しやすかった。このツアー報告を書いた編集部の大畑貴美子氏が、編集後記に「13 年前、竹内洋岳さんの 8000m 峰同行カメラマンとして話を聞いた。自身の今後について尋ねると、はにかみながら「いつかそういう高所でバリエーションから登れたら」。麦わら帽子の青年が見ていた高みをいま思い知り、あらためて慄いている。との所感は余りにも痛切だ。

本年 1 月末に資料映像委員会が講座を開催した第 1 回「マナスル」は中島健郎氏を招き、前会長古野淳とでナビゲーターを務めて戴いた(会報 No. 946 飯田副会長兼資料映像委員長報告)際に、中島氏に面識を得たこともあり、あの明るく、屈託のない大らかさに接した者として、この滑落事故が現実のこととは思われないでいる。

「彩の山研究会例会報告」2024、9.19(木) [問い合わせ先 0180ltmi@jcom.zaq.ne.jp](mailto:0180ltmi@jcom.zaq.ne.jp) 小原

■ 登山史 中村清太郎(なかむら せいたろう) 1888(明治 21)~1967(昭和 42)



ウェストン夫妻歓迎の宴 1912(明治 45 年).3 右端が中村清太郎(当時 24 歳)

中村清太郎は画家にして登山家である。

□1907(明治 40)年、東京高商入学、日本山岳会入会(加賀正太郎同期)

□1909(明治 42)年、小島烏水らと悪沢岳—赤石岳—小渋 赤石山脈縦走

□奥秩父の早期登山、縦走を行い世に紹介した。奥秩父だけでなく北アルプス、南アルプスを早期に登り、「山岳」等に報告した他、「山岳礼拝」「山岳渇仰」などの著書がある。

「山は有り難いものだと思う。山は眺めて有難く登って有り難く、想っても有り難い。」

「山岳礼拝」より

□1912(明治 45)年、3 月大菩薩嶺の北側の大黒茂谷で田部重治と迷い込む。田部重治が低体温症状態に落ち込んだ時に、麓の小菅に急を告げに走り、林業者らの手で一命を取り止めた事がある。山岳会の設立早期に、発起人らと開拓的山行を共にしている。

□1913(大正 2)年、5 月 木暮、南日(田部)両氏と金峰に登り、国師、甲武信初縦走。

8 月、五色ヶ原で木暮、田部と合流し、劔岳を別山尾根から登頂。

□会員番号 No.153。名誉会員である。

□クモマツマキチョウの発見者、針ノ木岳命名の辻本満丸に三枝守博と同行している。

□本郷絵画研究所で絵画を学び、1936(昭和 11)年には足立源一郎らと日本山岳画協会を設立した。

□上記写真は中村清太郎の遺品の中から出たと安川茂雄が書いている。

「ペンリレー」第 7 回 「焦りと迷い」**山行委員 那須朋美**

山に登ると何故かいつも思うこと。学生のころから登っていれば・・・どんなところに行けたかな？あと 10 歳若ければ・・・どんな登り方ができたかな？なのです。

2020 年に本格的に山登りを始めるはるか昔、若かりし学生だった頃は勢いで箱根の高級旅館に泊まってみたり、表参道でお買い物からの隠れ家レストランを楽しんでみたり、映えるパワースポットにうつるんです片手に出向いてみたり、それはそれで無駄な時間ではなかったし、今でも続く大切な仲間との有意義な時間であり心地よい空間でもありました。

その後、結婚と出産をへて、年齢が上がるにつれてお兄さんお姉さんのお友達も多くなり第 1 次？登山ブームなるものを経験していた師匠との出会いが 2015 年にあり私を本格的な山登りへと誘うこととなります。

親子ほど年の離れた師匠との山行は 3.4 人のパーティーで車に乗り込み栃木や群馬の低山中心に 2 ヶ月に 1 回ほどのペースで登り、山頂でみんなで作ったうどんを囲み、下山後温泉に入って帰る。たまには関東の百名山を日帰り（日光白根山・男体山）登り、山頂でお湯を沸かして珈琲を飲み、下山後温泉に入って、道の駅に寄って帰る。それはそれは今までに経験したことない充実したものでした。

徐々に 1 人でも飯能の山をさまようことが出来るようになり、登山ツアーに年 2 回ほど参加するようになり私の中の山域は少しずつ広がっていきました。

登山ツアーでガイドさんと知り合うようになり、ガイドさん独自のツアーコースに参加するようになり、岩をさわりはじめ雪山を経験しアックスを握り置きやすい氷を探し始めたころには一人息子が就職し、今までの何かしらの責任から解放され、休日近くなるとそわそわざわざわ頭の中が山の事しか考えられないようになっていきます。

有意義な時間を過ごした友にもそこまでいったら病気だねと言われるようになり、山に対する気持ちもピークだった気がします。

そんなちょっとおかしかった時期に誘われたバリエーションルートによって私の中の焦りがはじまるのです。身のこなしの低下とロープワークを覚える知能の衰え（決してそれだけではありませんが）。若者の恐るべし体力に圧倒され撃沈している私をいたわってくれる優しさを感じて更に老化を痛感し、申し訳ないと思いながら必死についていく山行。

皆にいつまでついていけるかな？この山行は遠慮した方がいいかしら？なんて葛藤しながら本当は私この状況を楽しんでいるのかもと楽観的に思ってみたり・・・。

いろんな思いがごちゃ混ぜになりながらも時には冷静にあきらめも必要よと自身に言い聞かせてみたり。初老あるあるですね。

そんな私ですが「安全に山を楽しむ」を心掛け挑戦を続けていきたいと思います。

※次回は松尾渡さんです。

新入会員 自己紹介

事務局長 林 信行

《吉羽悠介 会員番号 17297》

皆様、はじめまして。この度新たに入会いたしました吉羽悠介(ヨシバユウスケ)と申します。私が登山をはじめたのは、仕事で山形に住んでいた時、とあるアニメを見てやってみたいと思ったことです。草紅葉を見ながら月山を登り、かなり疲れながらも気がついたら山頂の神社に辿り着いていました。山頂はあいにくガスがかかっていて景色は全然見えませんでした。その時の達成感は今でも忘れられません。その後、当時住んでいた町の山岳会の方に誘われて入会し、登山道整備などにも従事しました。昨年転職して埼玉に引っ越し、清掃登山をしていた方々に誘われ、こちらでも山仲間がいると心強いと思い、入会することとなりました。登山歴は約 5 年の若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

《小泉玲佳 会員番号 A0634》

小泉玲佳と申します。価値観が移り変わる社会についていけず毎日悩みながら働く 36 歳です。登山経験は職場の友人と登った富士山のみですが、山だから見られる景色や生き物をもっと見てみたいという気持ちをずっと持っていました。今年度、やま塾に入塾し、登山について教わったり、いろいろな方と一緒に登るうちにもっと登山の世界に入りたいと思うようになりました。清掃登山や登山をして動植物の観察をすることなど、参加できるものに積極的に参加していきたいです。未熟者ですがよろしくお願いいたします！

事務局からのお知らせ

事務局長 林 信行

埼玉支部会員 在籍者数及び異動

2024 年 10 月 20 日現在

会員	125 名	準会員	23 名	計	148 名
----	-------	-----	------	---	-------

【入 会】

会 員			準会員		
17297	吉羽 悠介 (坂戸市)	6 月	A0634	小泉 玲佳 (上尾市)	9 月

【退 会】

会 員			準会員		
			A0503	高倉 洋一	10 月

